

令和4年度

男女平等・共同参画に関する区民意識調査報告

目 次

	ページ
Ⅲ 令和4年度 男女平等・共同参画に関する区民意識調査報告・・・	Ⅲ-1
資料 男女平等・共同参画に関する区民意識調査 調査票・・・	Ⅲ-55

令和4年度 男女平等・共同参画に関する区民意識調査報告

1 調査の目的

この調査は、男女平等・共同参画に関する区民の意識を把握し、今後の関係施策を推進するための基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の内容

- I 男女平等に関する意識と実態
- II ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- III 人権の尊重
- IV 区の男女平等・共同参画施策

3 調査方法と回収状況

- (1) 調査地域 目黒区全域
- (2) 調査対象 目黒区在住の18歳以上の個人
- (3) 対象者数 2,500人（女性1,250人、男性1,250人）
- (4) 抽出方法 住民基本台帳を基に男女別に無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送及びオンラインフォーム
- (6) 調査期間 令和4年4月26日（調査票発送）～令和4年5月31日
- (7) 調査実施機関 目黒区総務部人権政策課
- (8) 回収状況

	標本数	有効回収数	有効回収率
総数	2,500	946	37.8%
女性	1,250	535	42.8%
男性	1,250	411	32.9%

【参考】令和3年度 男女平等・共同参画に関する意識調査報告

○調査方法と回収状況

- (1) 調査地域 目黒区全域
- (2) 調査対象 目黒区在住の18歳以上の個人
- (3) 対象者数 2,500人（女性1,250人、男性1,250人）
- (4) 抽出方法 住民基本台帳を基に層化無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布－郵送回収
- (6) 調査期間 令和3年4月27日（調査票発送）～令和3年5月31日（返送締切）
- (7) 調査実施機関 目黒区総務部人権政策課
- (8) 回収状況

	標本数	有効回収数	有効回収率
総数	2,500	1,118	44.7%
女性	1,250	621	49.7%
男性	1,250	497	39.8%

4 報告書の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（n）を基礎とした百分率（%）で表示した。
- (2) 百分率は、小数第二位を四捨五入してあるため、比率の合計が 100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の場合には、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- (4) 信頼度を 95%とした場合、標本誤差は下式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

{

- N = 母集団数
- n = 比率算出の基数（回答者数）
- P = 回答の比率

母集団数（令和 4 年 4 月 1 日現在の目黒区の 18 歳以上の人口）は 242,073 人

今回の調査結果の標本誤差は以下のとおり。

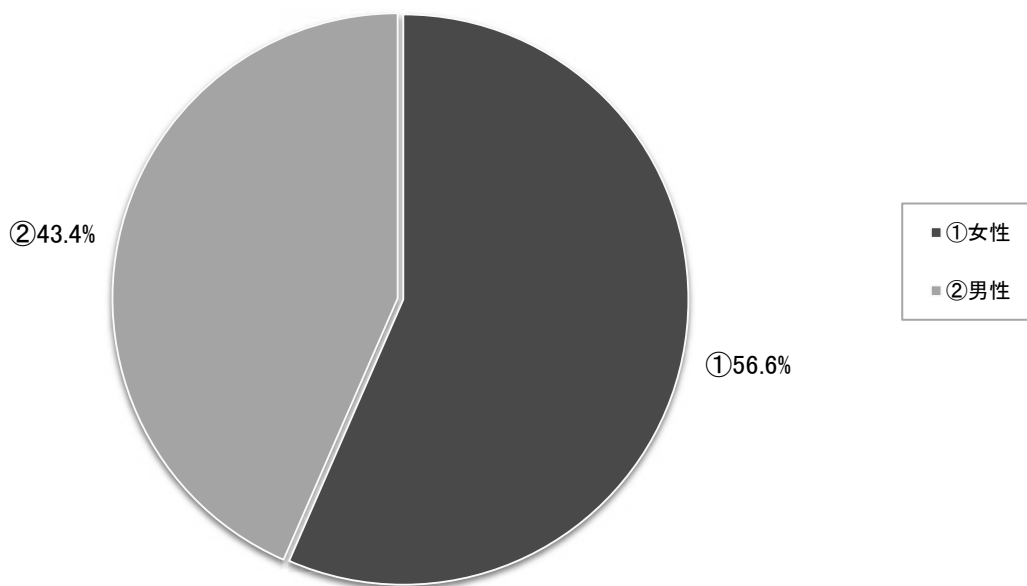
回答比率 (P) n	90%又は 10%程度	80%又は 20%程度	70%又は 30%程度	60%又は 40%程度	50%程度
946	±1.9	±2.6	±3.0	±3.2	±3.2
750	±2.2	±2.9	±3.3	±3.6	±3.6
600	±2.4	±3.3	±3.7	±4.0	±4.1
400	±3.0	±4.0	±4.6	±4.9	±5.0
300	±3.5	±4.6	±5.3	±5.7	±5.8
100	±6.0	±8.0	±9.2	±9.8	±10.0

【表の見方】
 たとえば、ある設問に「そう思う」と回答した人が全体（n=946）の 20.0%であった場合、上記表の回答比率に当てはめると、20%程度の標本誤差は±2.6%であるため、「そう思う」と考えている人は、標本誤差を補正すると、17.4%から 22.6%の間にあることが、95%の信頼度でいえることとなります。

- (5) コメント掲載基準
 - ア 性別により回答に大きく偏りがあるものについてコメントしている。
 - イ 令和 3 年度の調査と比較可能な設問については、令和 3 年度の結果と比べて変化の大きいものについてコメントしている。（標本誤差の範囲内のものについてはコメントしていない。）
 - ウ 区の施策への要望等については、要望の多い項目を記載している。（問 5・7・9・11・18・19）

【 回答者のプロフィール 】

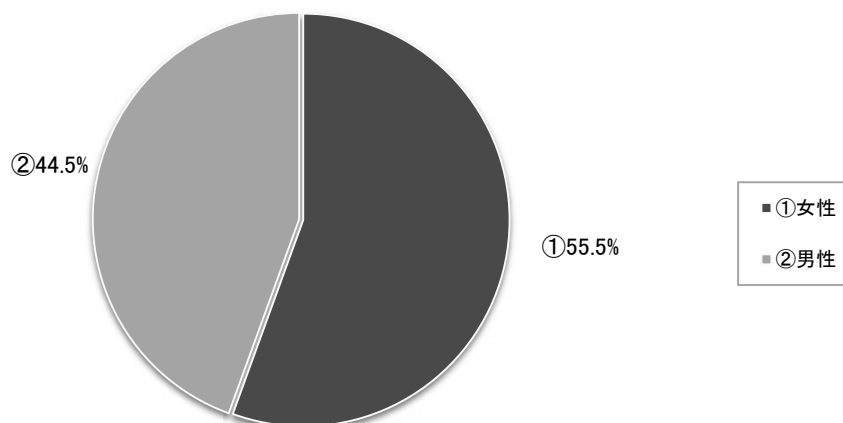
F 1 自認する性別



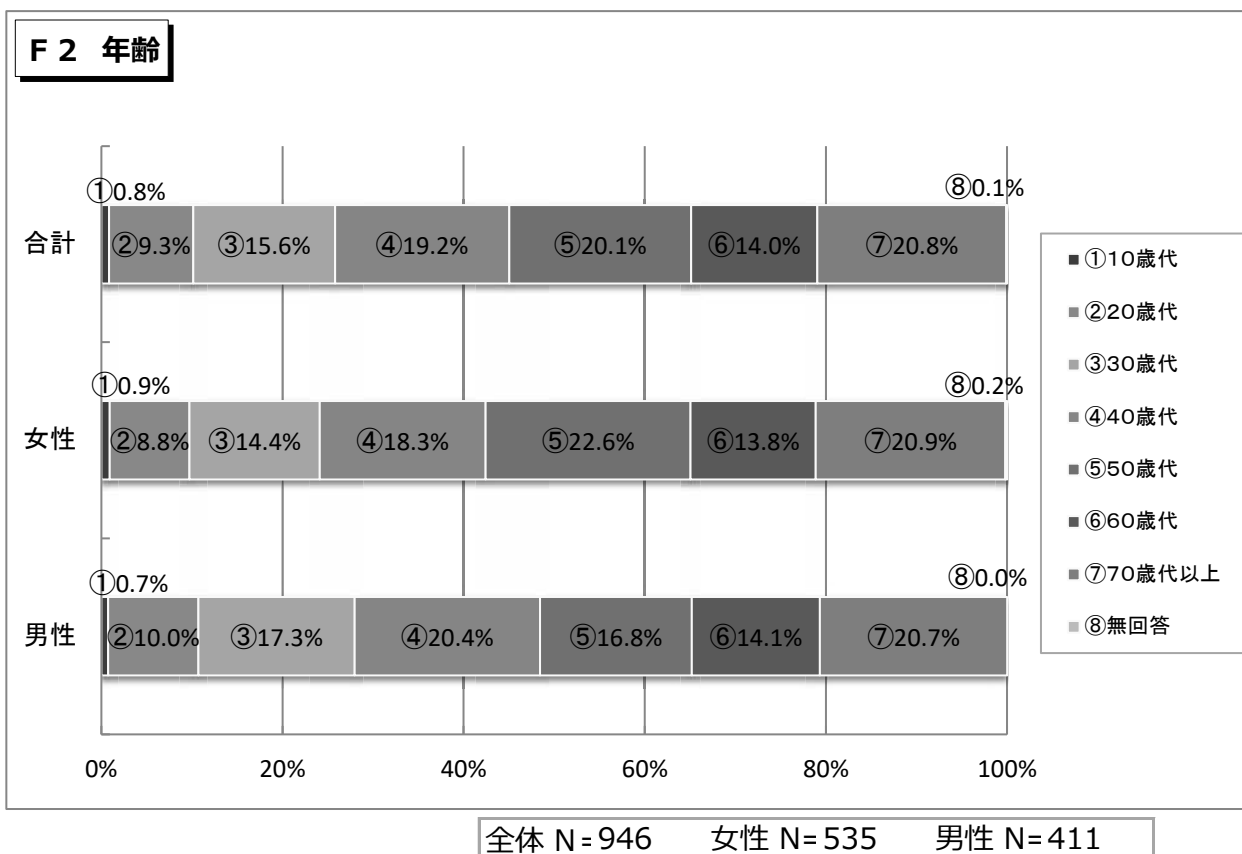
全体 N = 946 女性 N = 535 男性 N = 411

■ 令和3年度調査

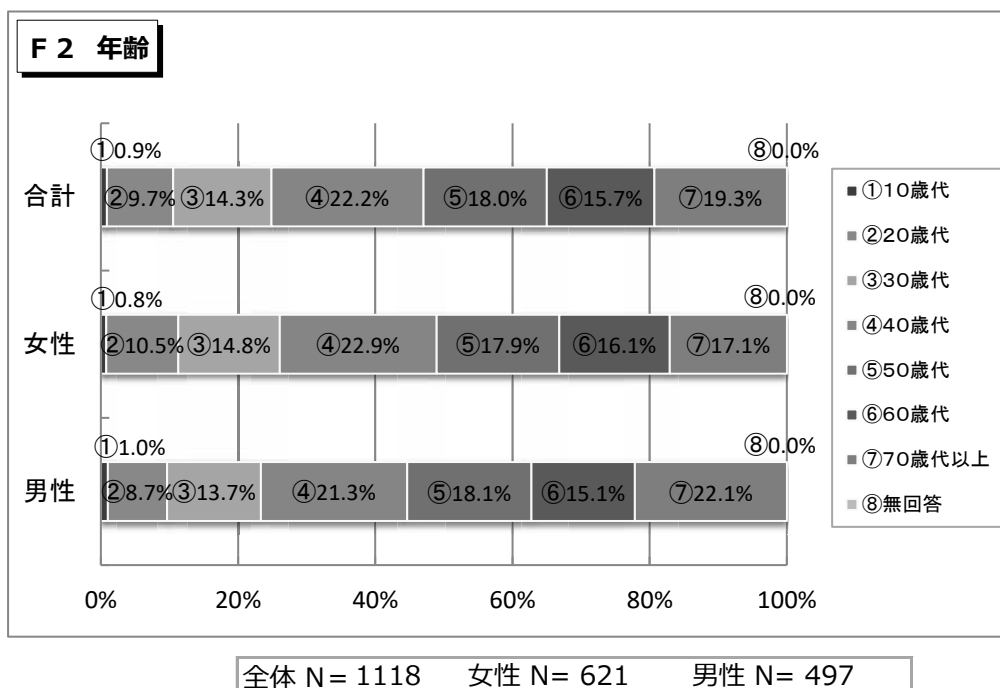
F 1 自認する性別

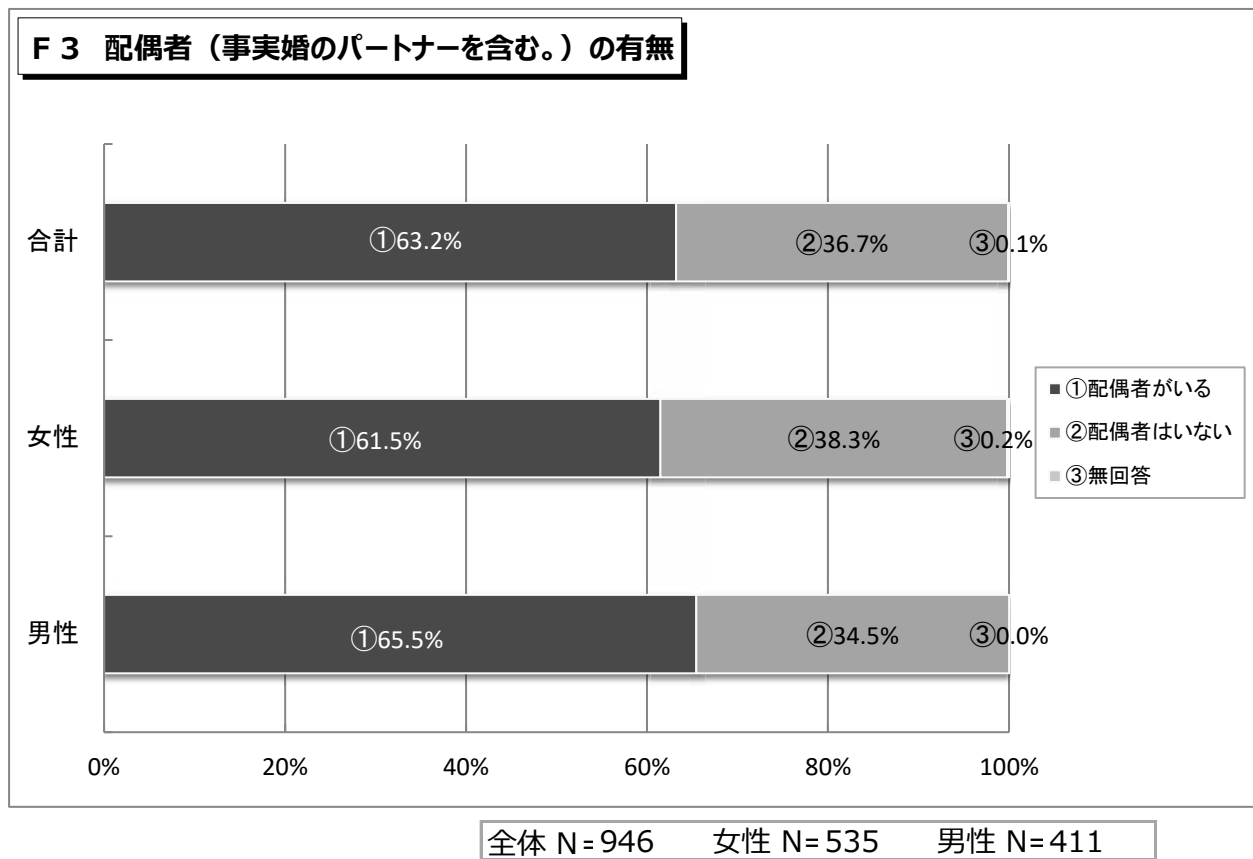


全体 N = 1118 女性 N = 621 男性 N = 497

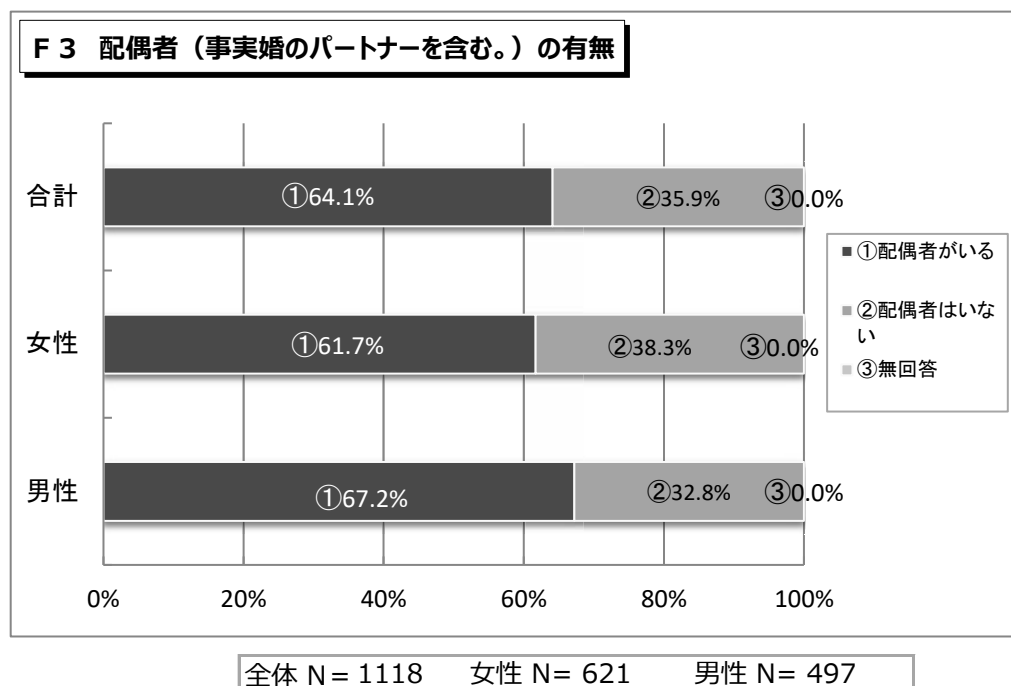


■ 令和3年度調査

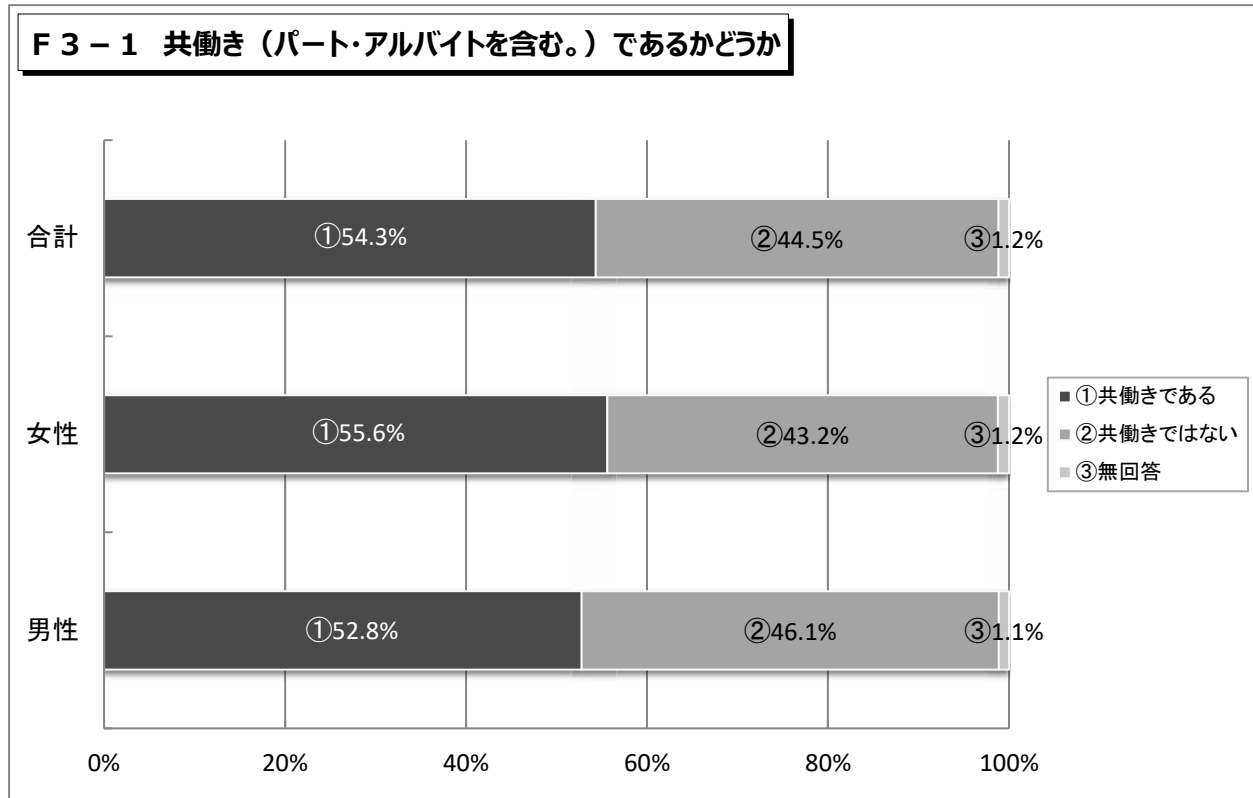




■ 令和3年度調査

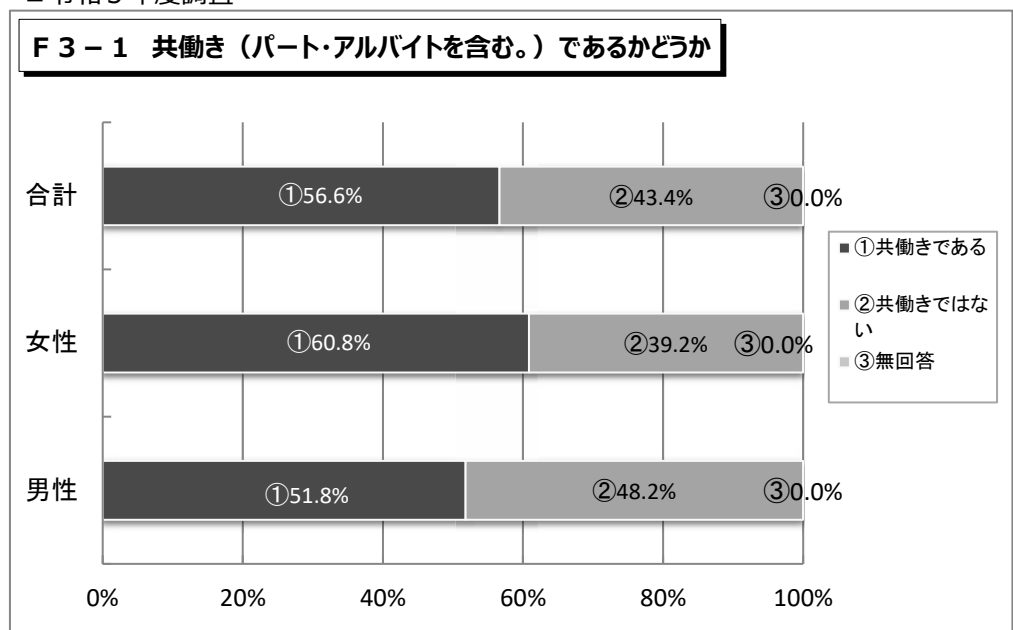


F3で配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいると回答があった中で

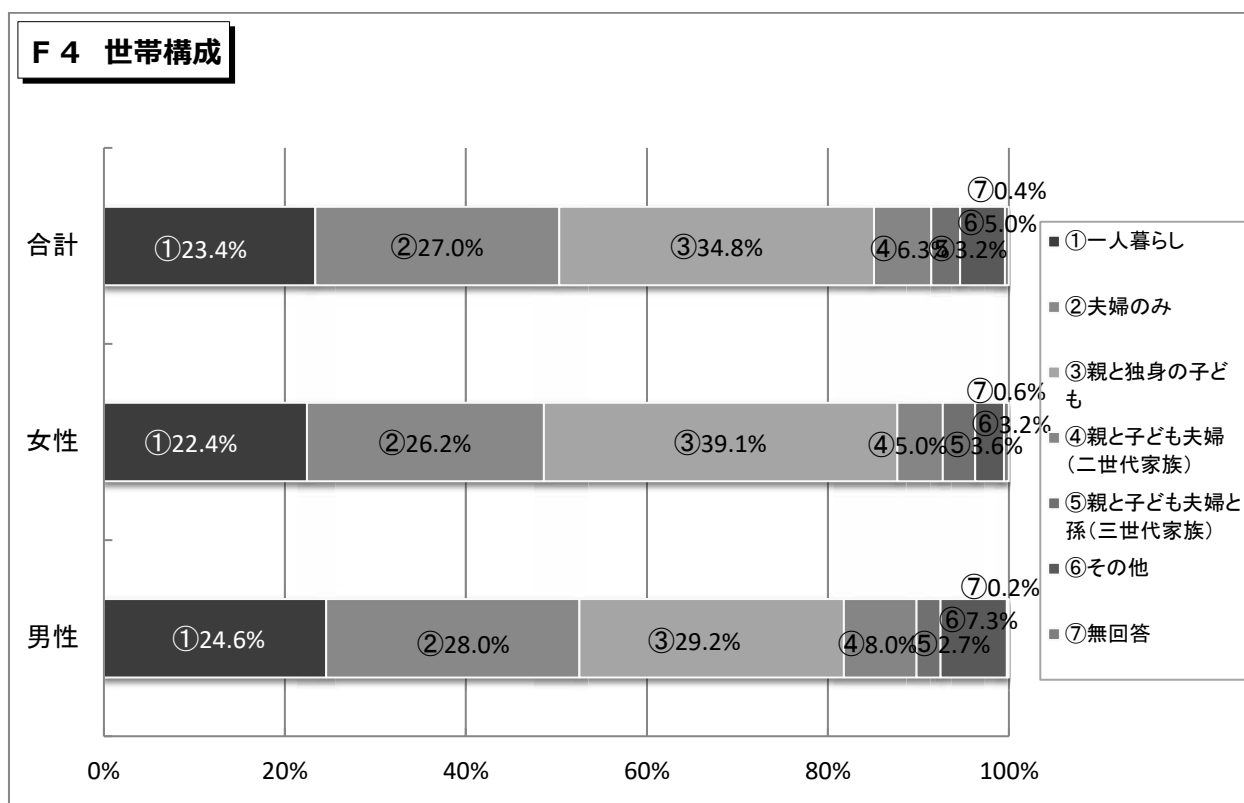


全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

■ 令和3年度調査

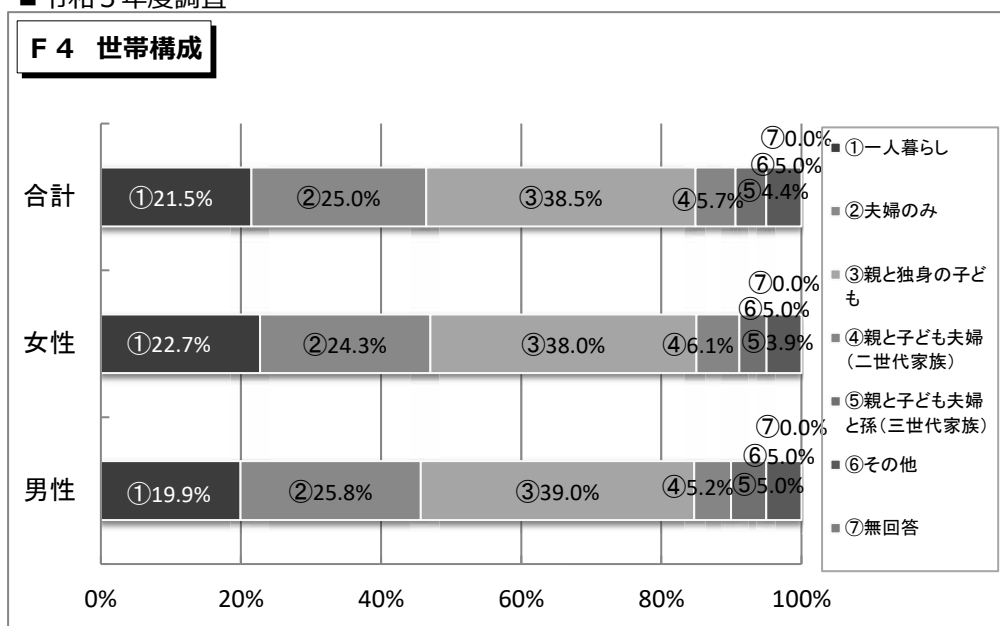


全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

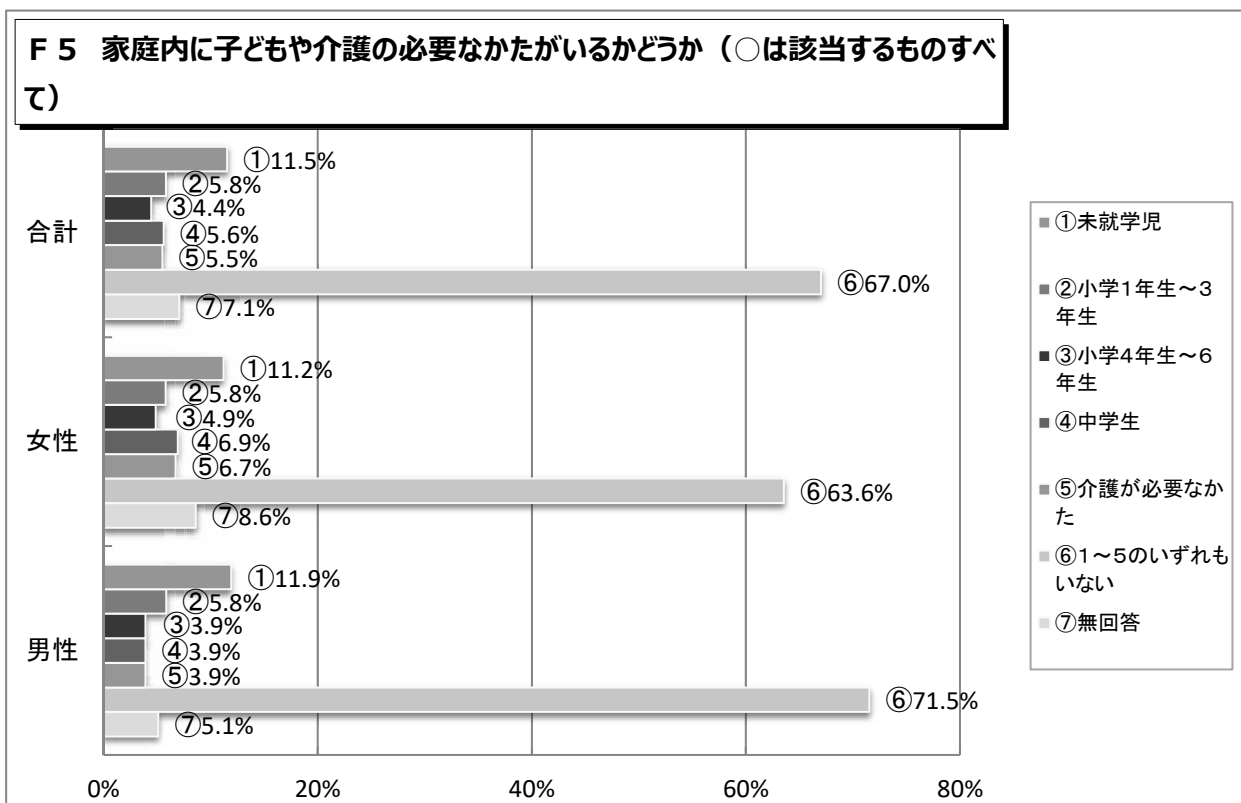


全体 N=946 女性 N=535 男性 N=411

■ 令和3年度調査

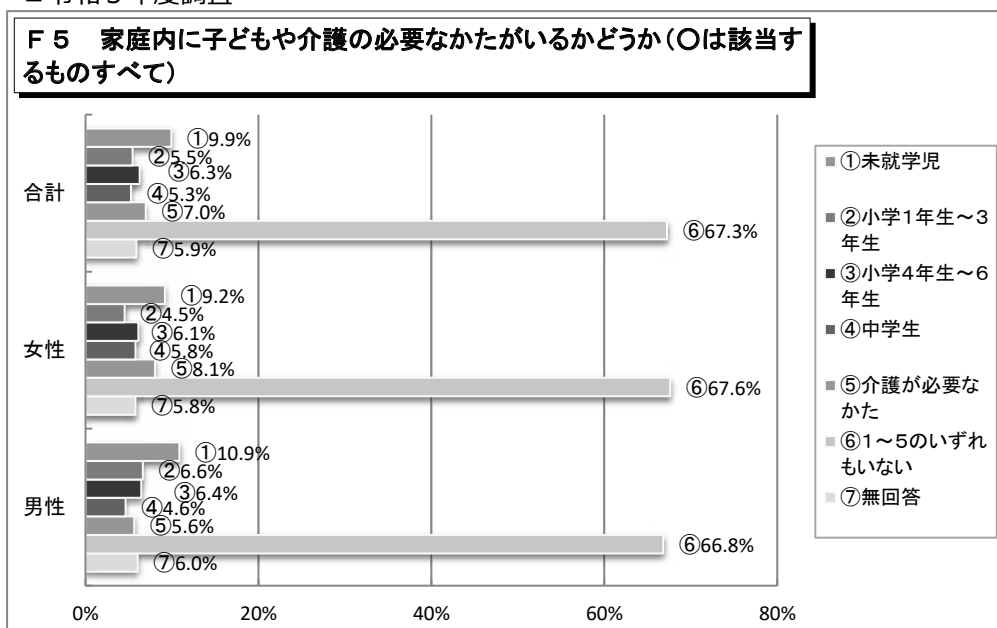


全体 N=1118 女性 N=621 男性 N=497



全体 N = 946 女性 N = 535 男性 N = 411

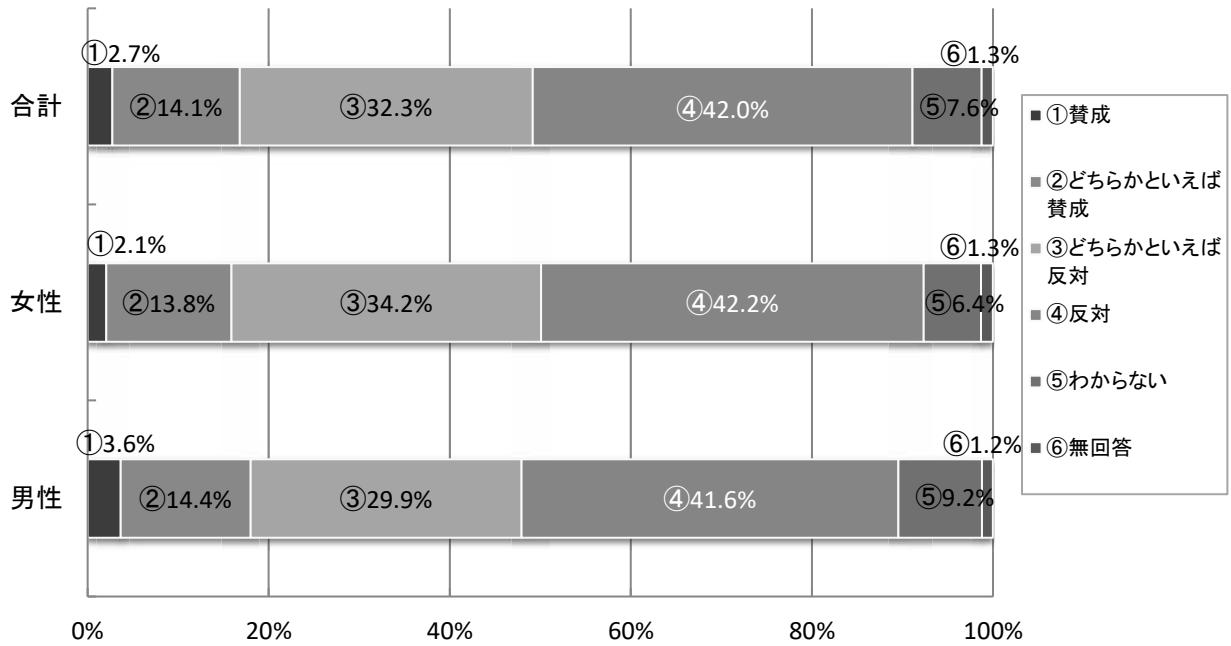
■ 令和3年度調査



全体 N = 1118 女性 N = 621 男性 N = 497

【 I 男女平等に関する意識と実態 】

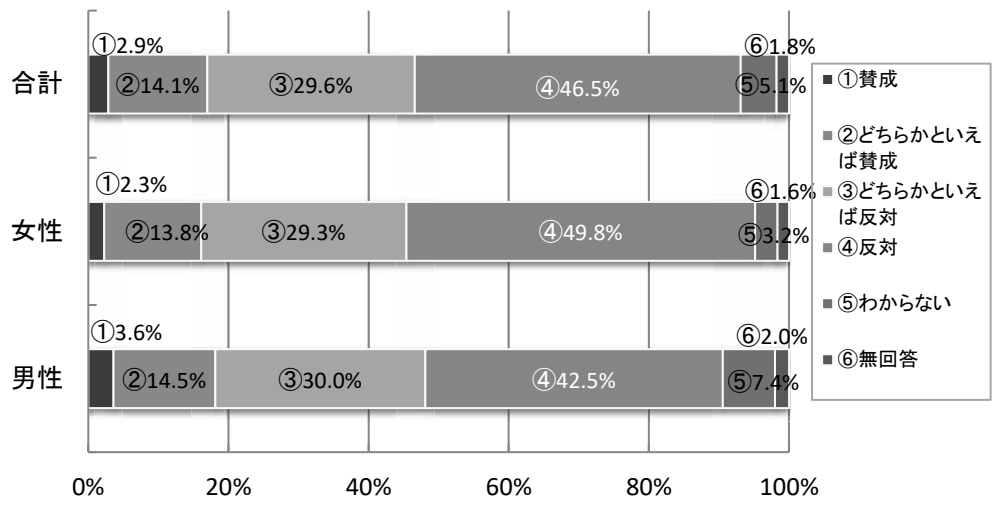
問1 男女には社会や家庭などで性別による固定的な役割があるという考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)



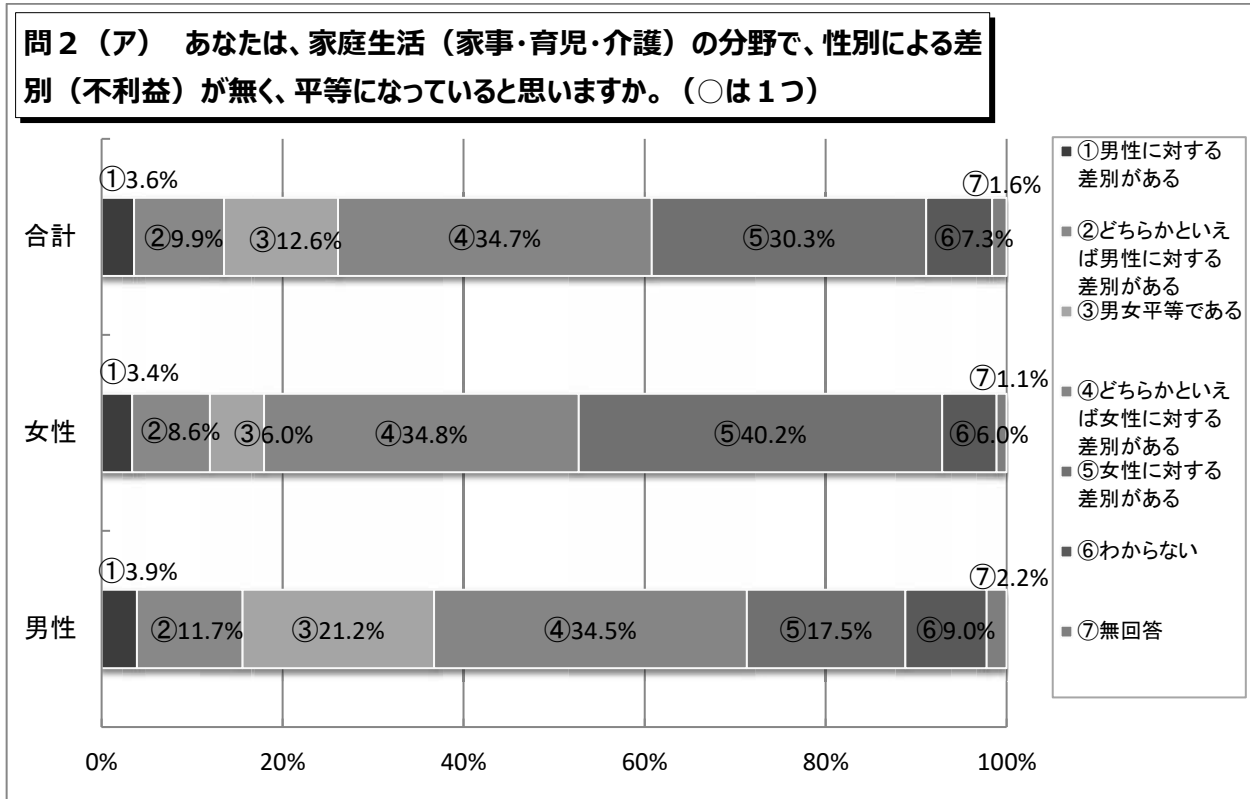
全体 N = 946 女性 N = 535 男性 N = 411

■ 令和3年度調査

問1 男女には社会や家庭などで性別による固定的な役割があるという考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)



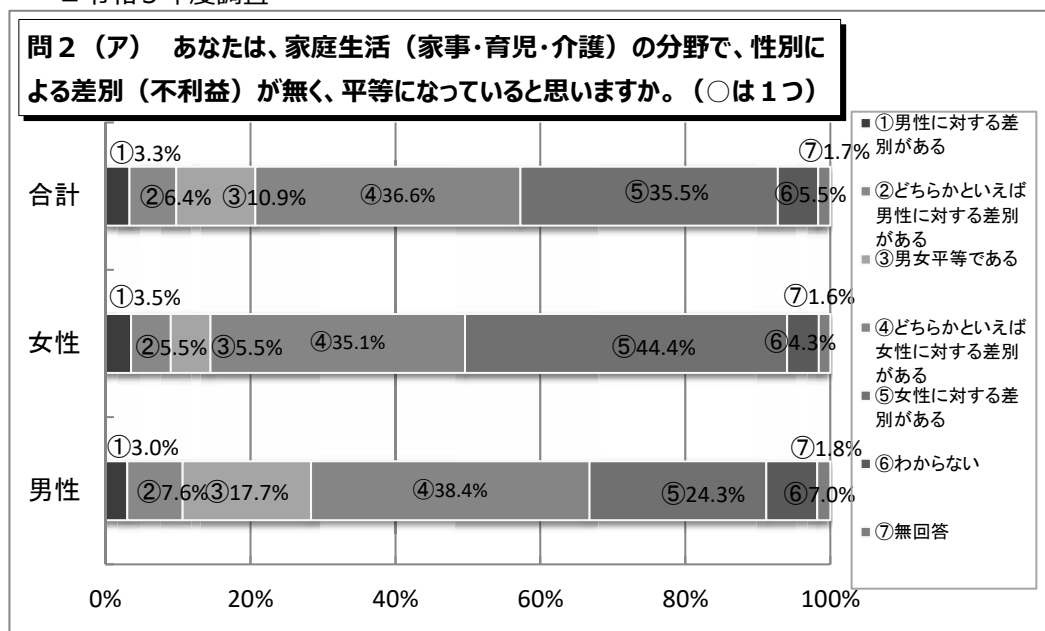
全体 N = 1118 女性 N = 621 男性 N = 497



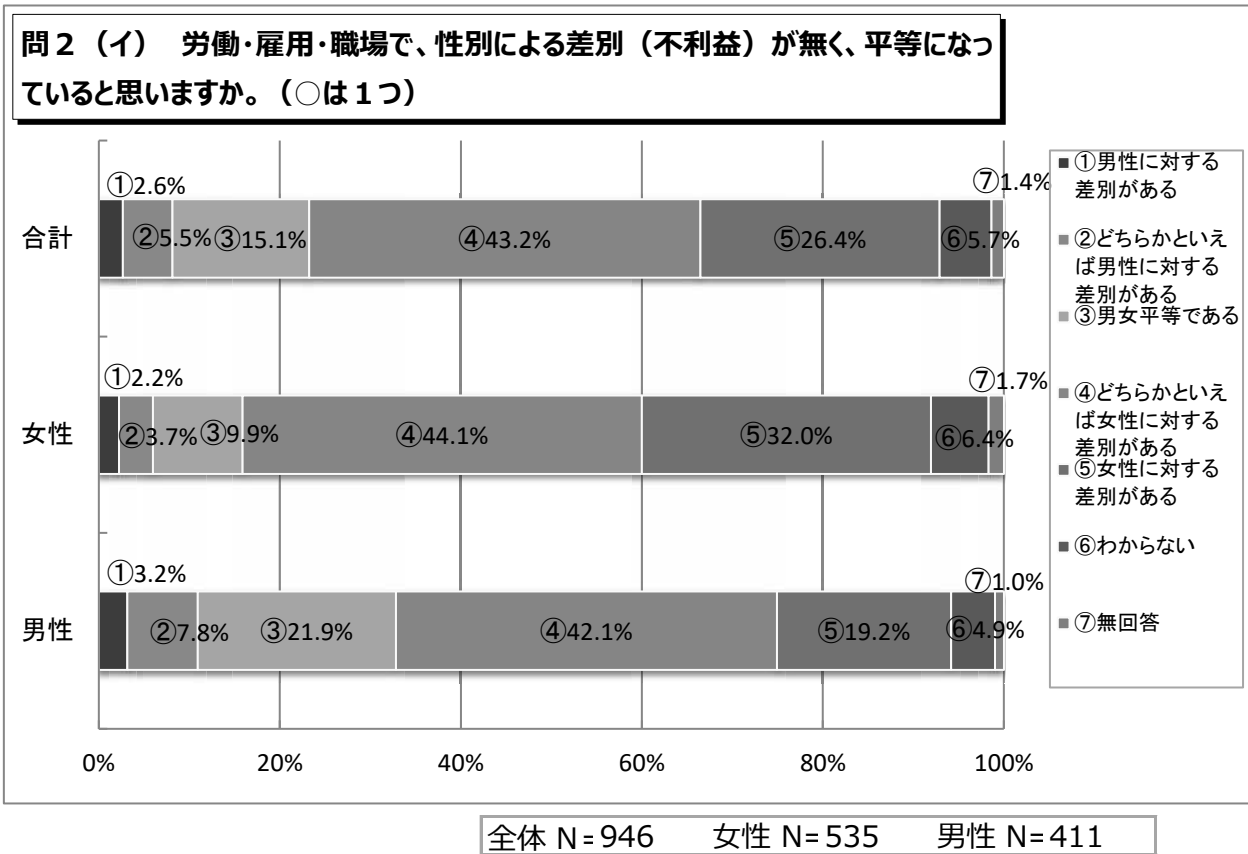
全体 N=946 女性 N=535 男性 N=411

■ 家庭生活の分野について、「男女平等である」と回答した人は、女性が6.0%、男性が21.2%で、男女差がある。また、「女性に対する差別がある」と回答した人は、女性が40.2%、男性が17.5%で、男女差がある。

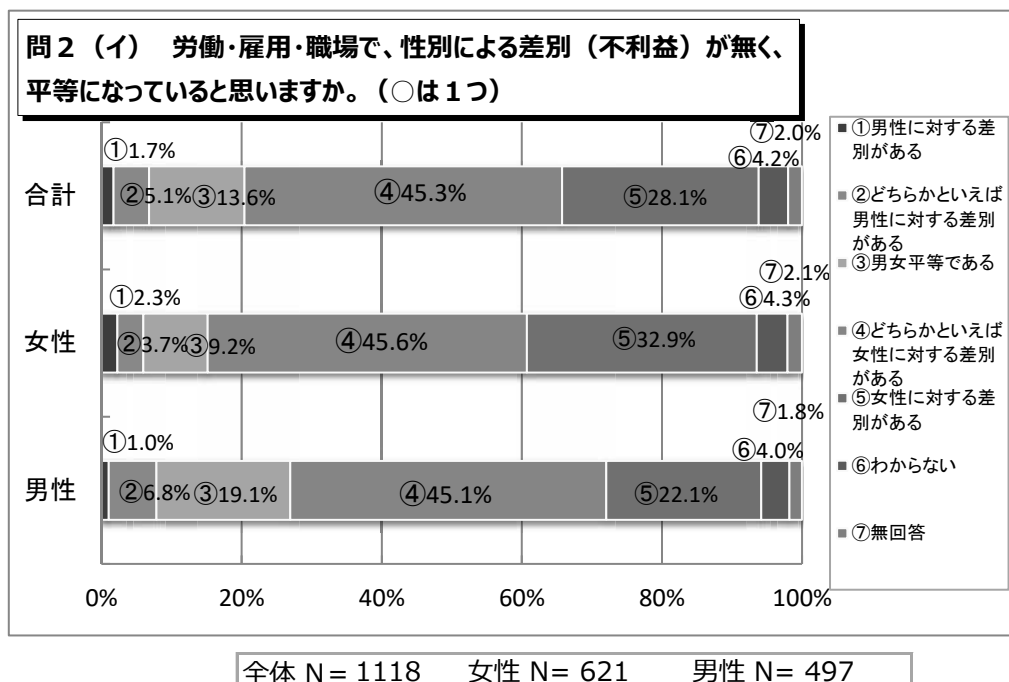
■ 令和3年度調査

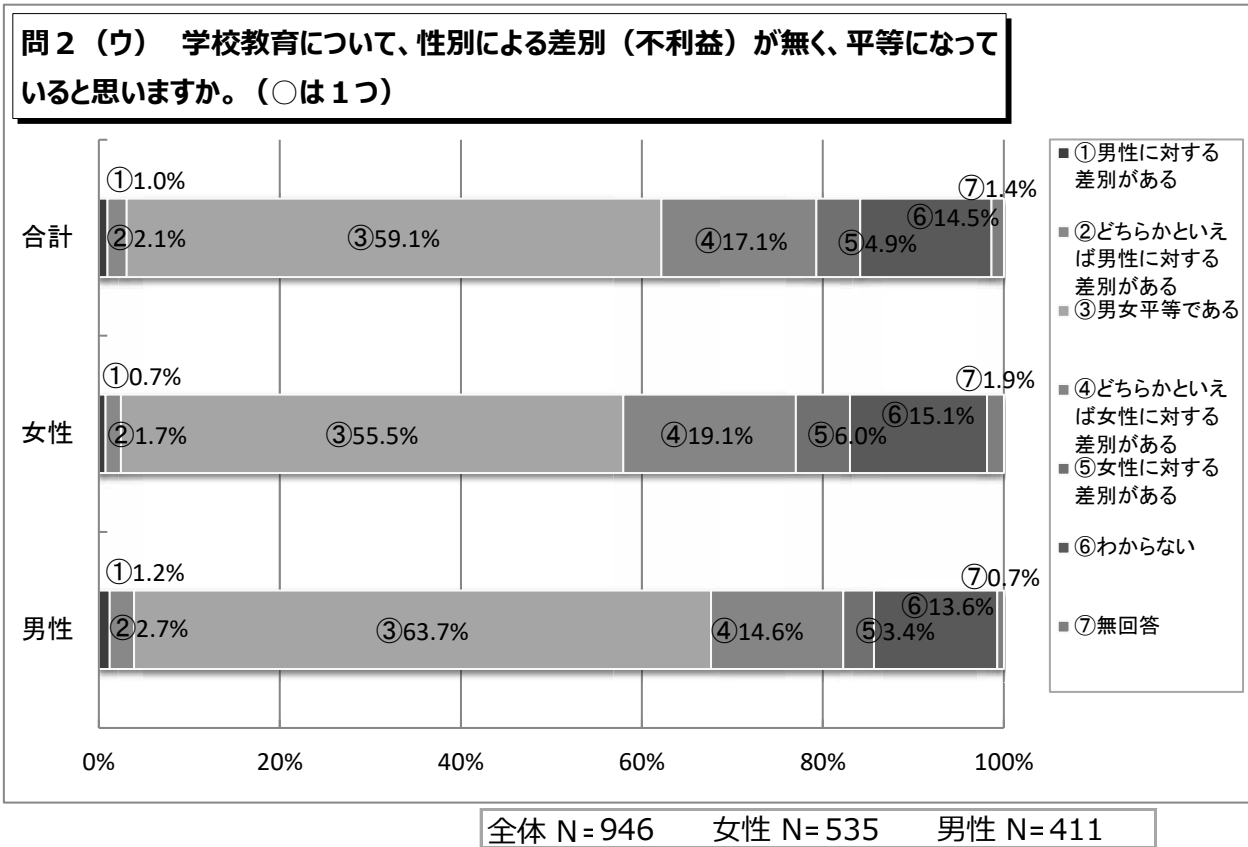


全体 N=1118 女性 N=621 男性 N=497

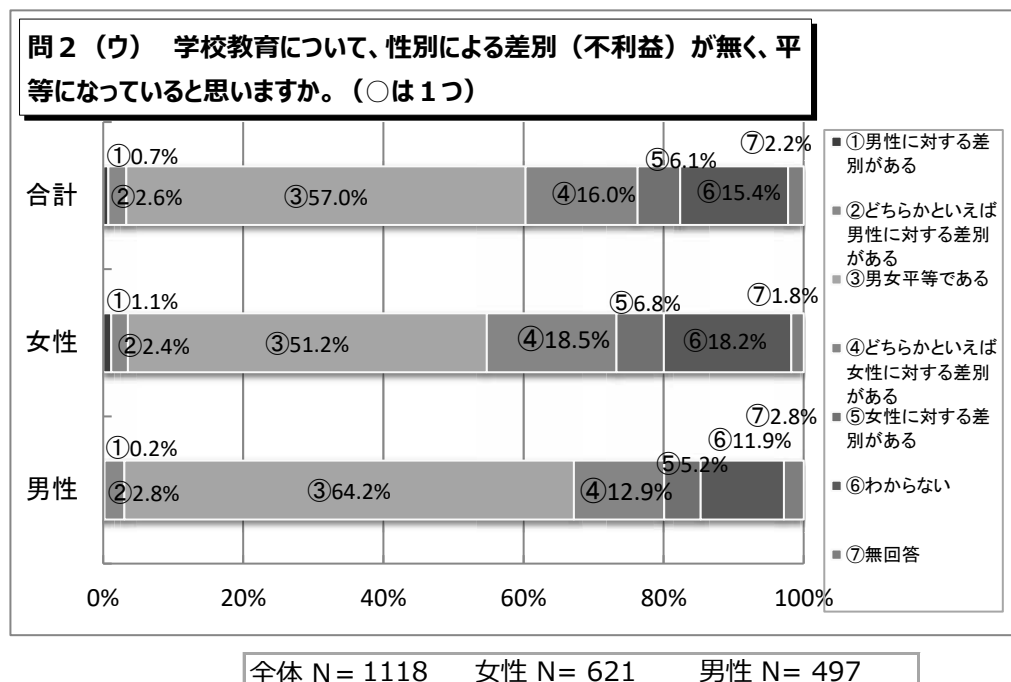


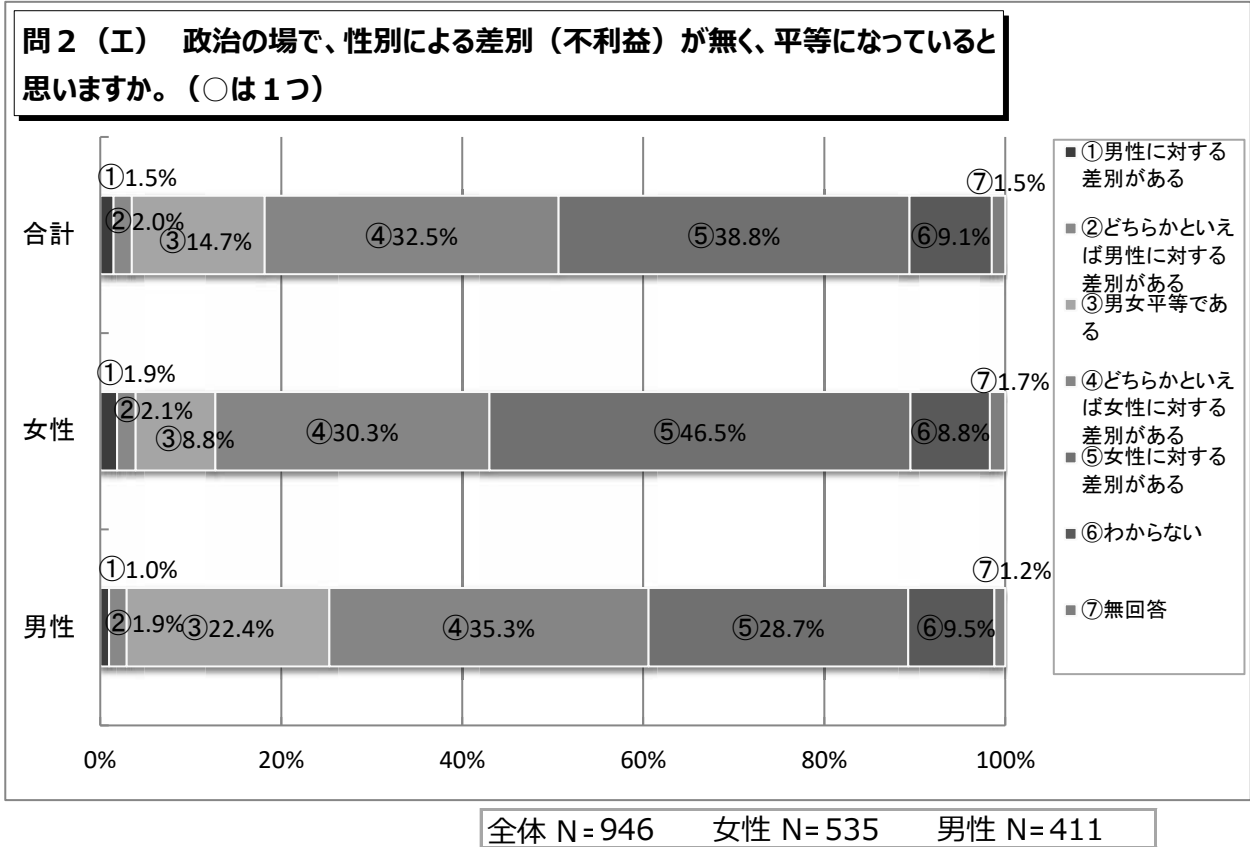
■ 令和3年度調査





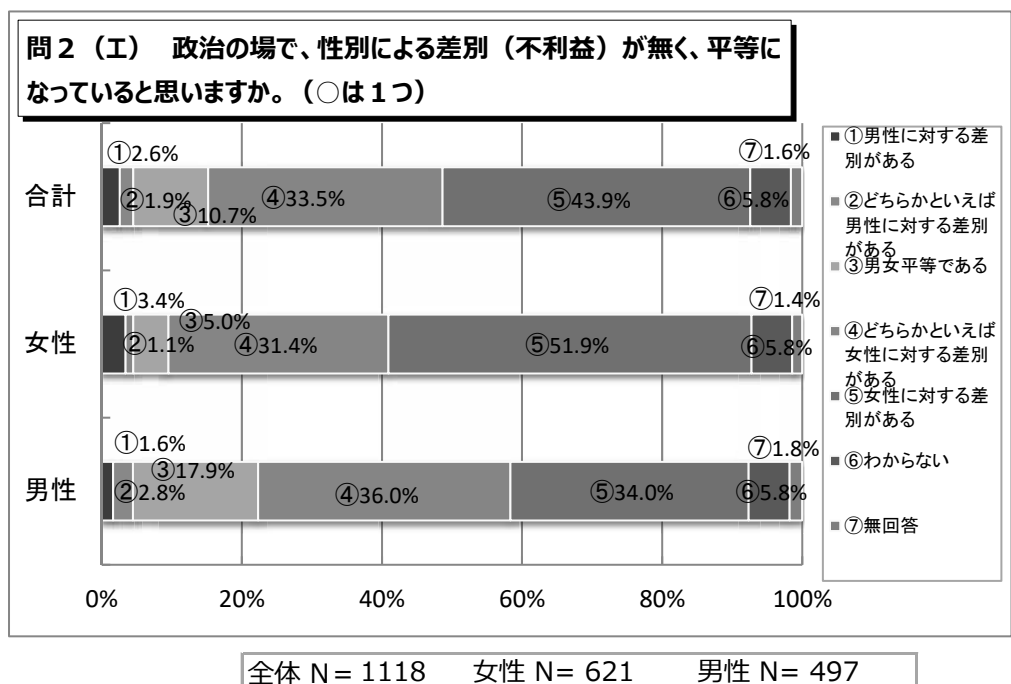
■ 令和3年度調査

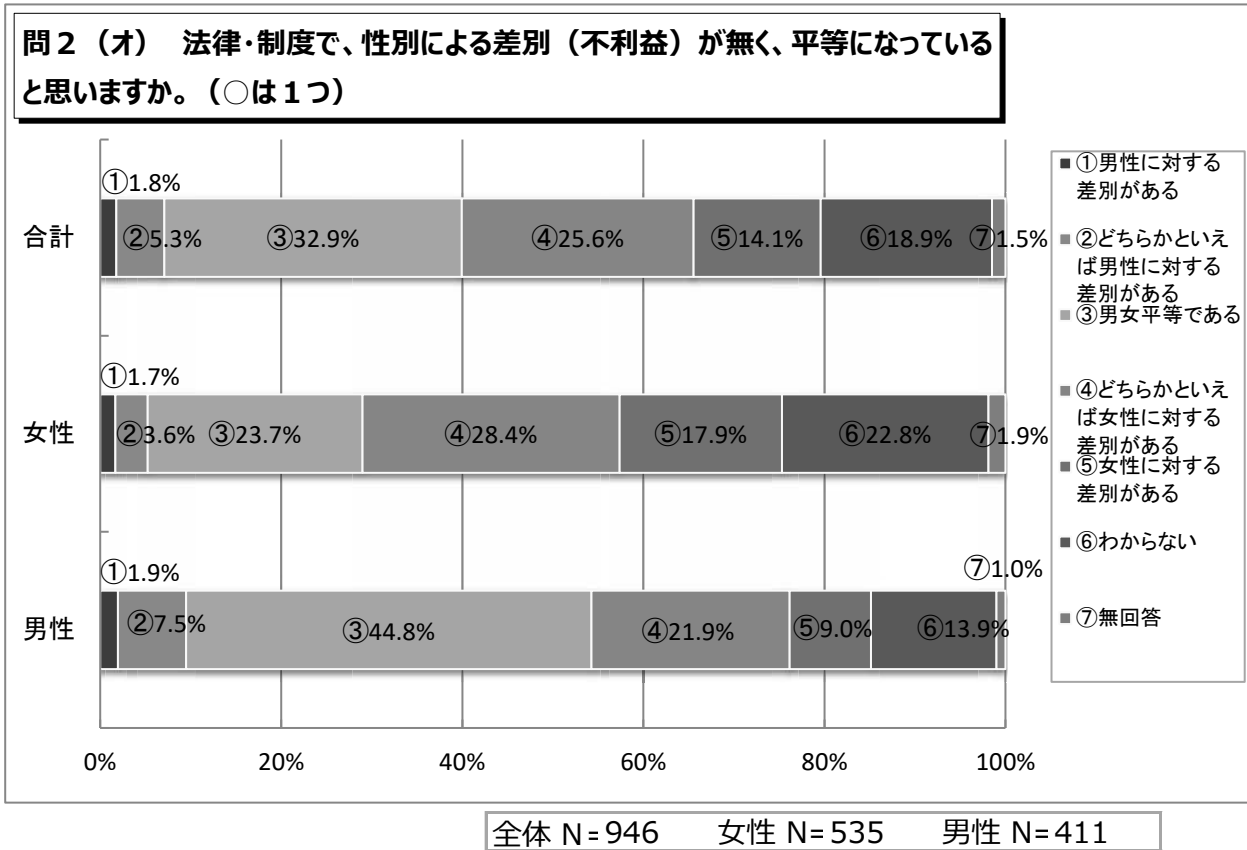




■ 政治の場について、「男女平等である」と回答した人は、女性が8.8%、男性が22.4%で、男女差がある。また、「女性に対する差別がある」と回答した人は、女性が46.5%、男性が28.7%で、男女差がある。

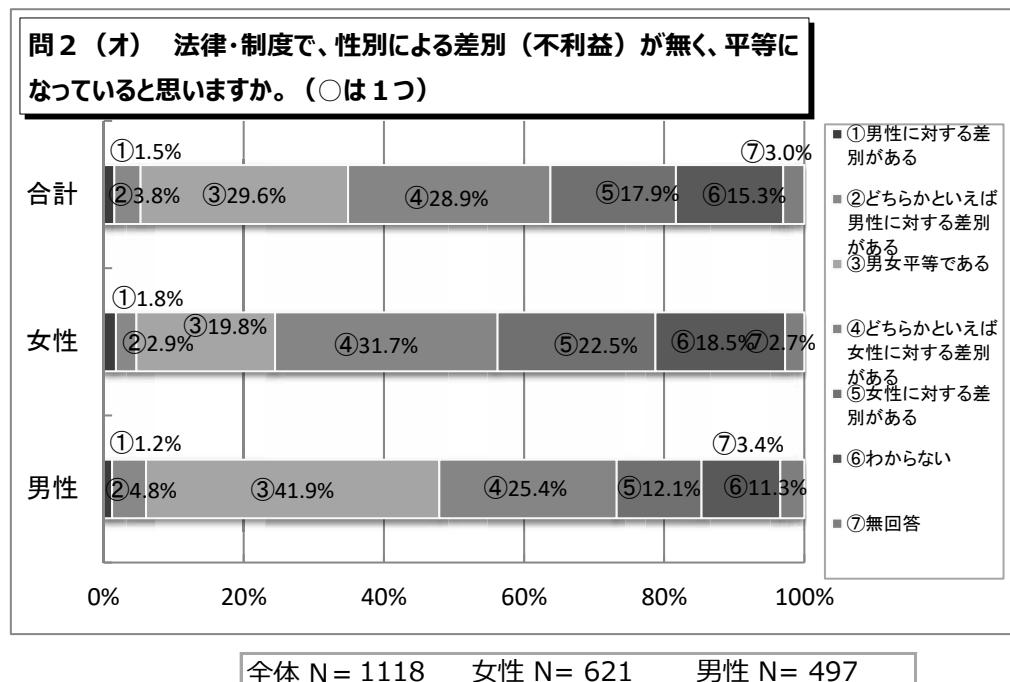
■ 令和3年度調査

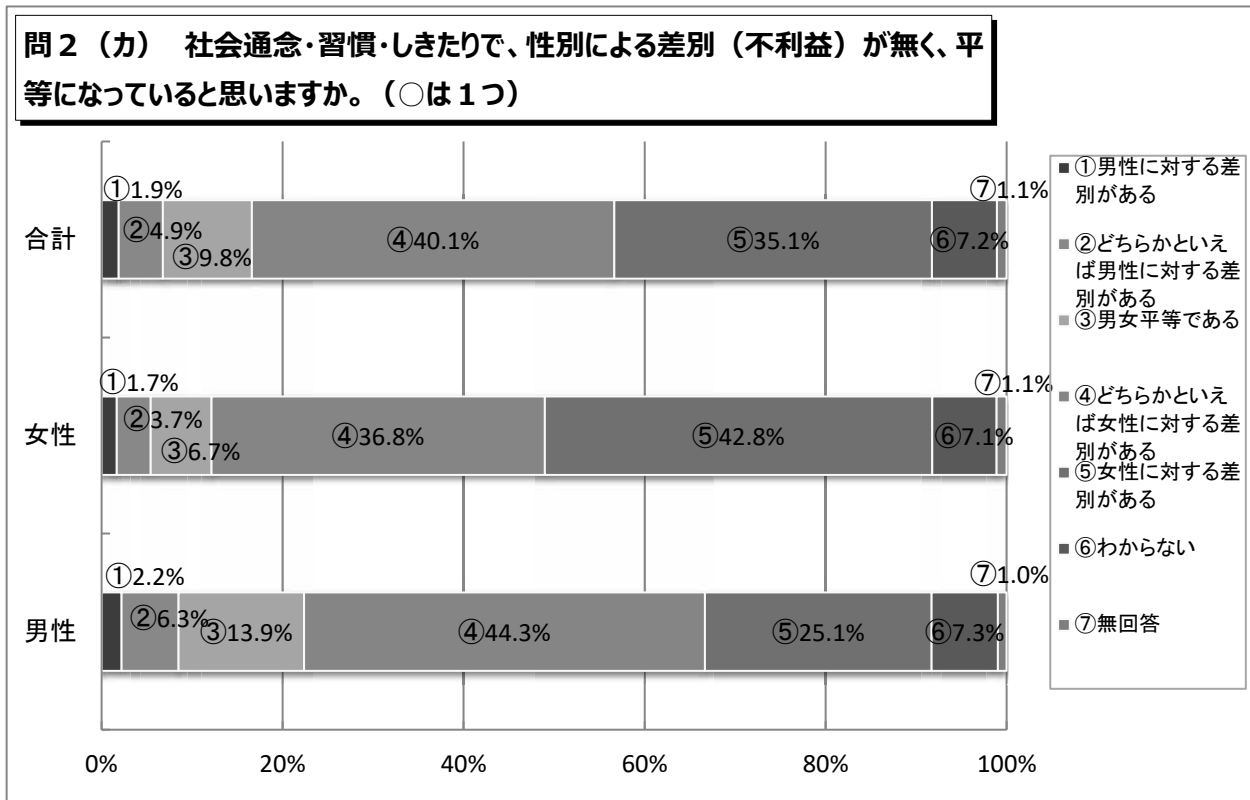




■ 法律・制度について、「男女平等である」と回答した人は、女性が23.7%、男性が44.8%で、男女差がある。

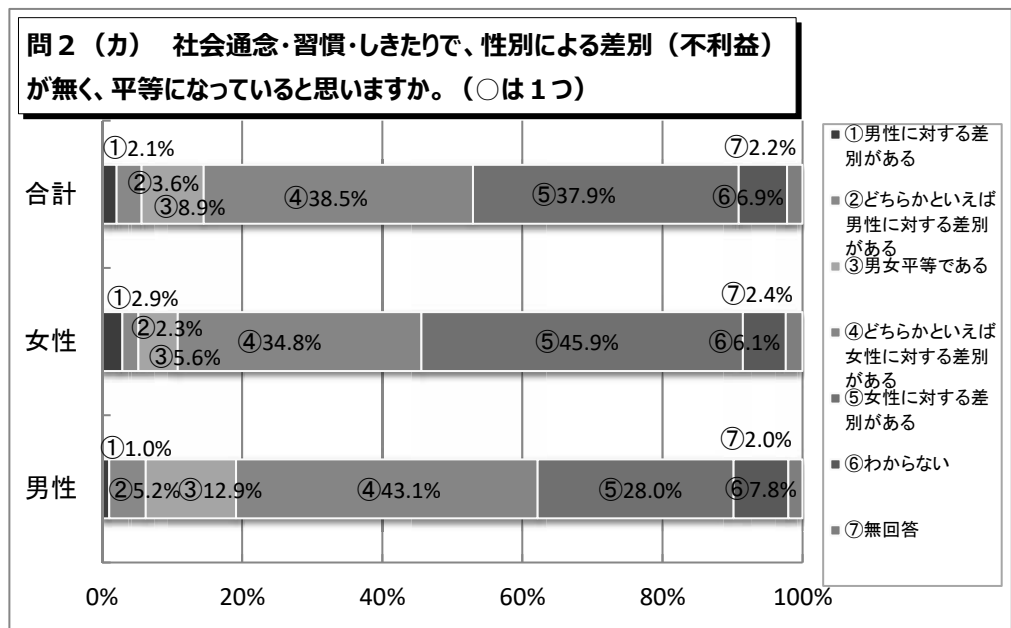
■ 令和3年度調査





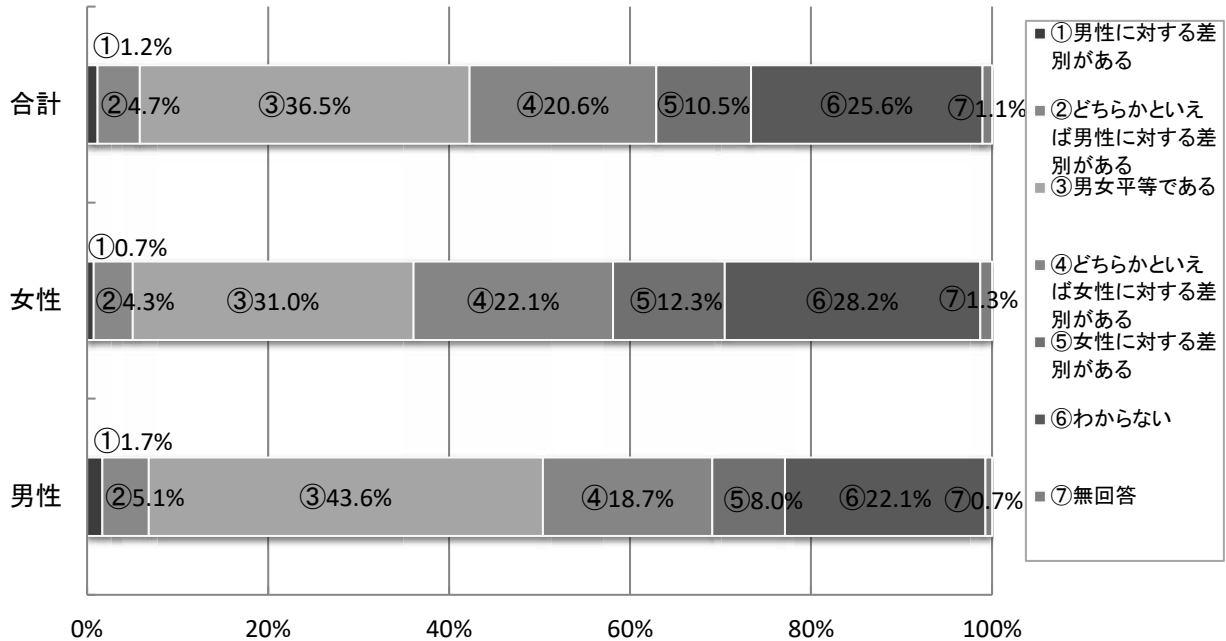
全体 N=946 女性 N=535 男性 N=411

■ 令和3年度調査



全体 N=1118 女性 N=621 男性 N=497

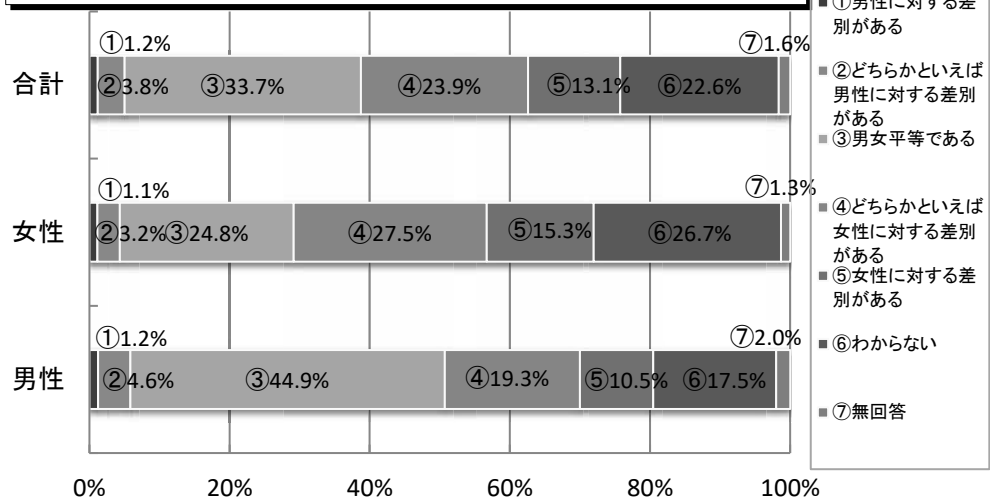
問2(キ) 地域の活動や行事で、性別による差別(不利益)が無く、平等になっていると思いますか。(○は1つ)



全体 N=946 女性 N=535 男性 N=411

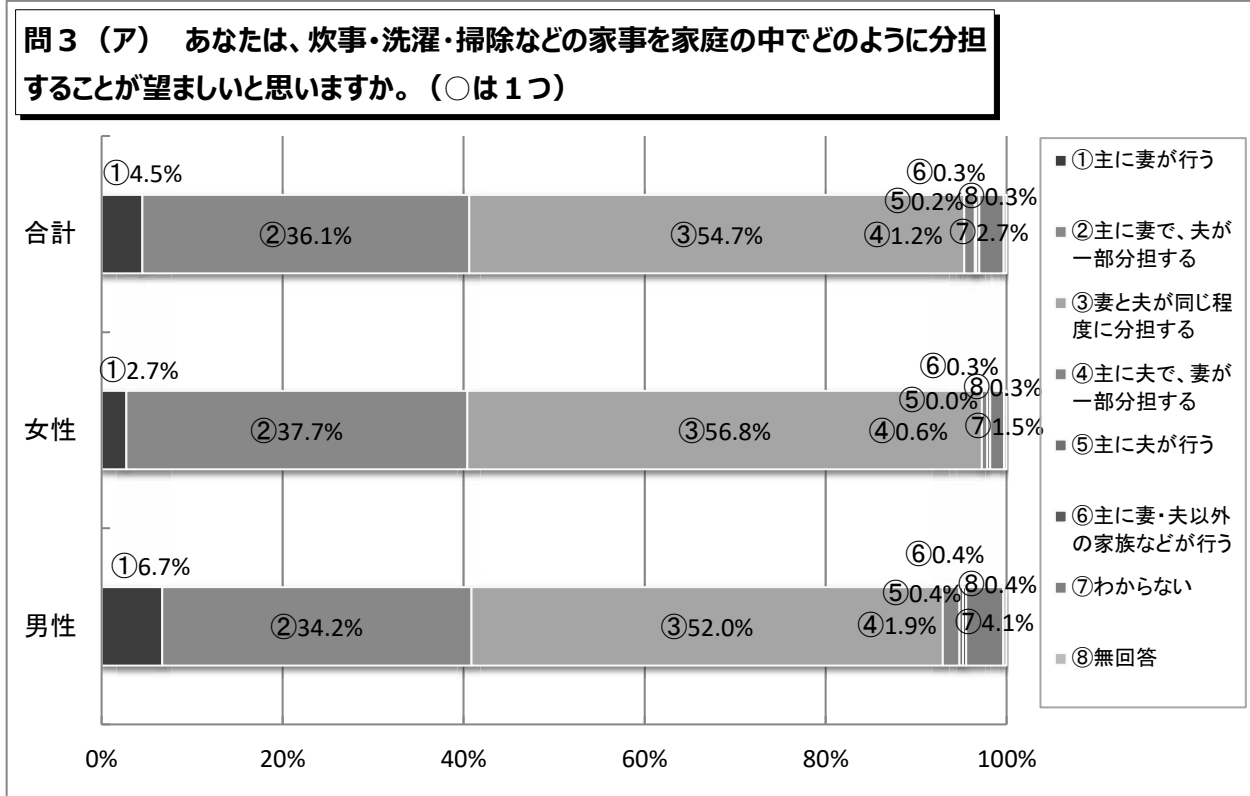
■令和3年度調査

問2(キ) 地域の活動や行事で、性別による差別(不利益)が無く、平等になっていると思いますか。(○は1つ)



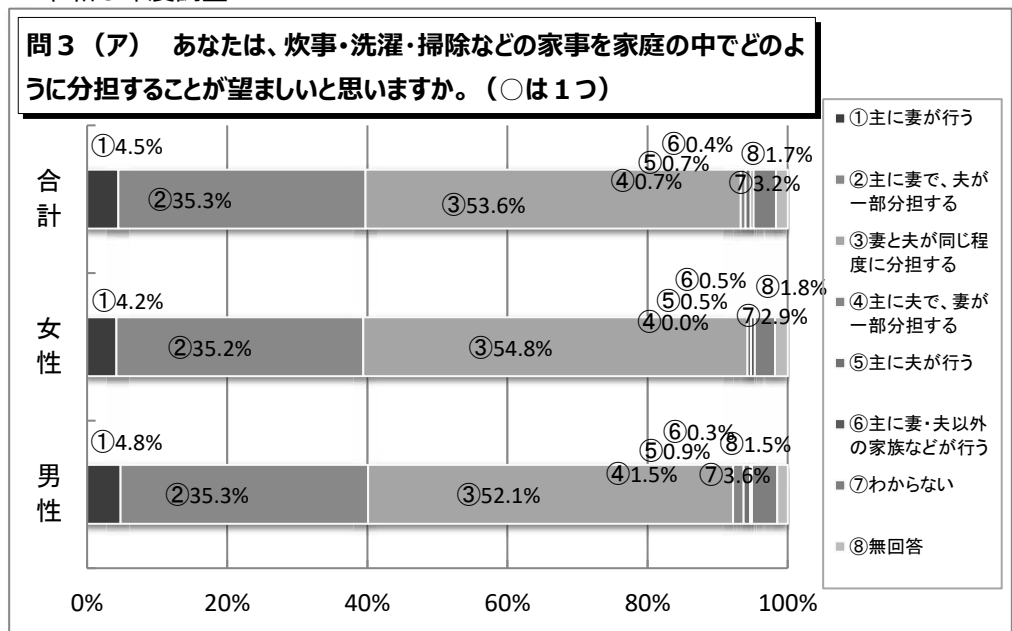
全体 N=1118 女性 N=621 男性 N=497

配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



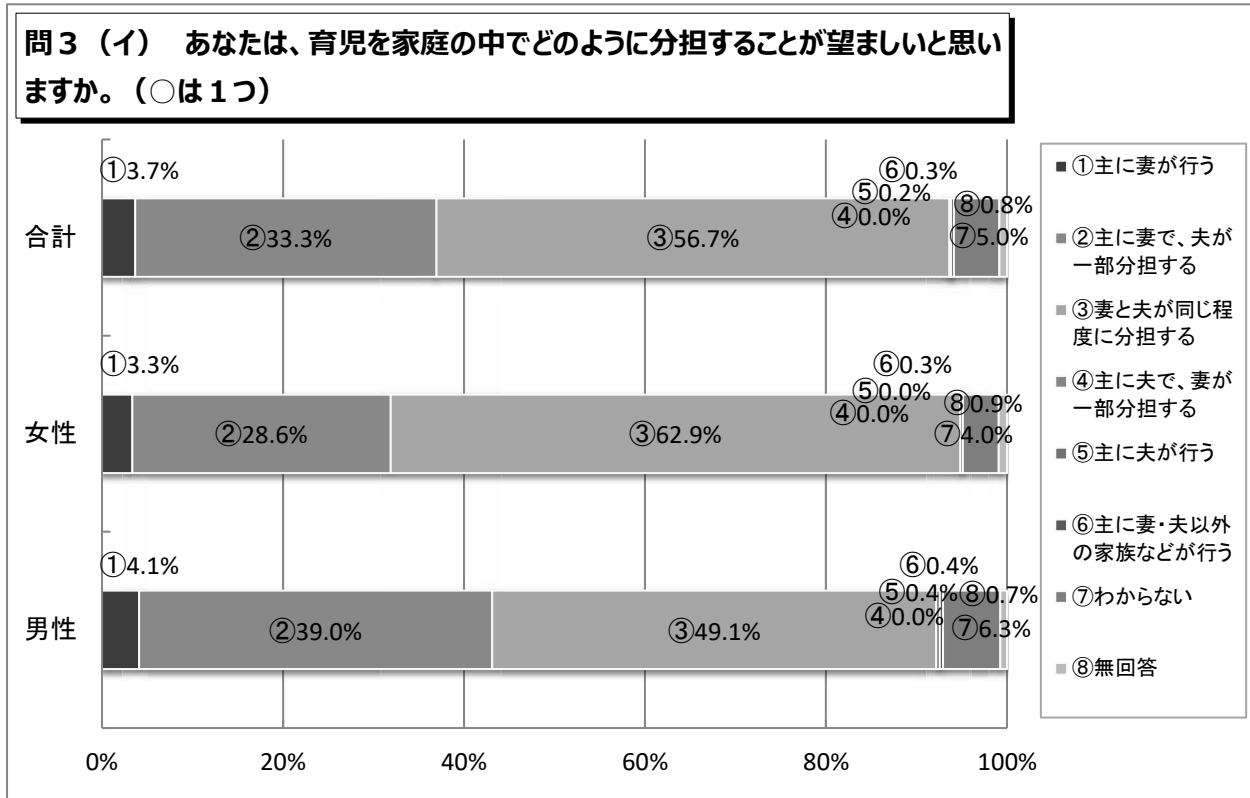
全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

■ 令和3年度調査



全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

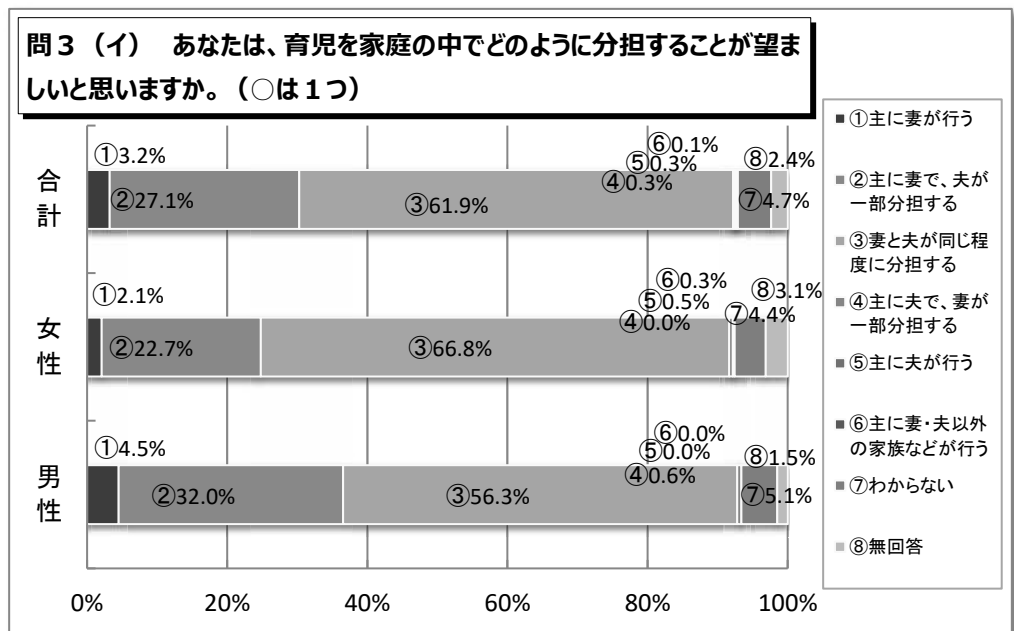
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

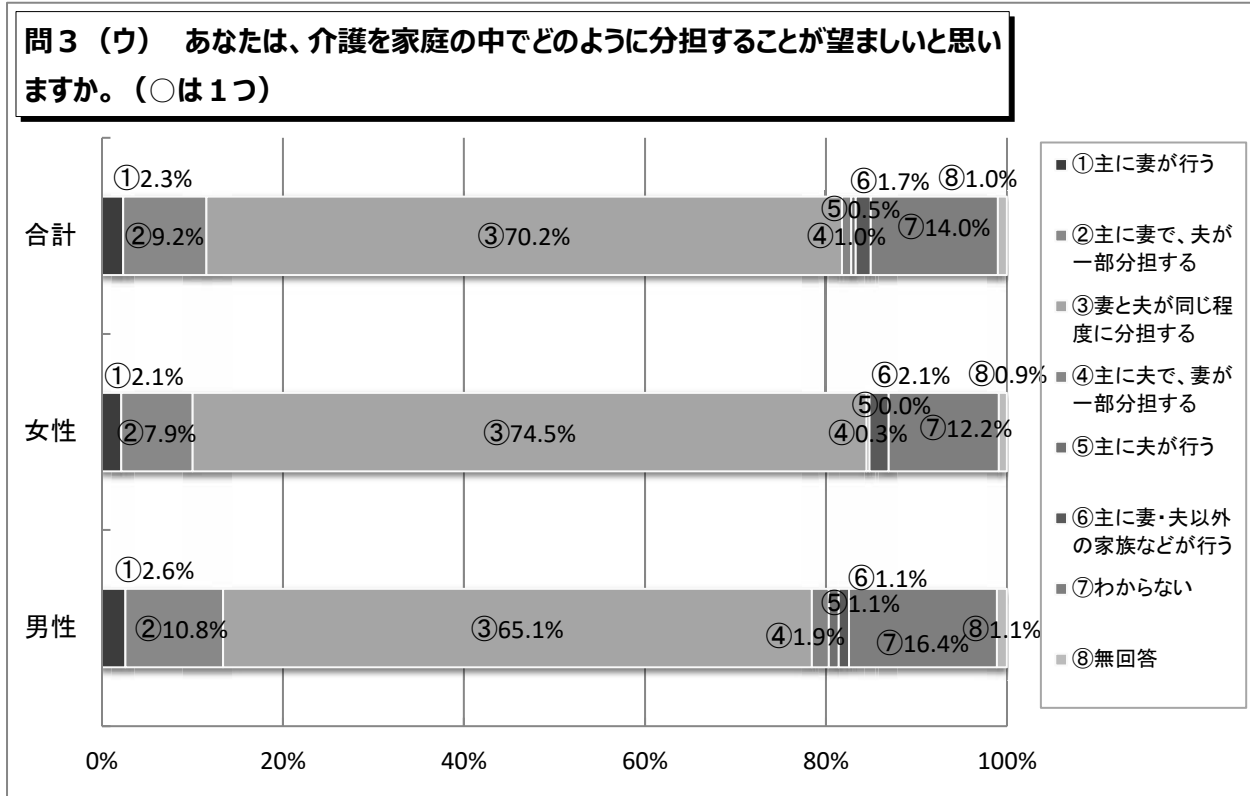
■ 家庭の中の育児について、望ましい分担のあり方を「妻と夫が同じ程度に分担する」と回答した人は全体で56.7%であり、前回の調査と比較して女性、男性ともに割合が低くなった一方、「主に妻で、夫が一部分担する」と回答した人が女性、男性共に増加した。

■ 令和3年度調査



全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

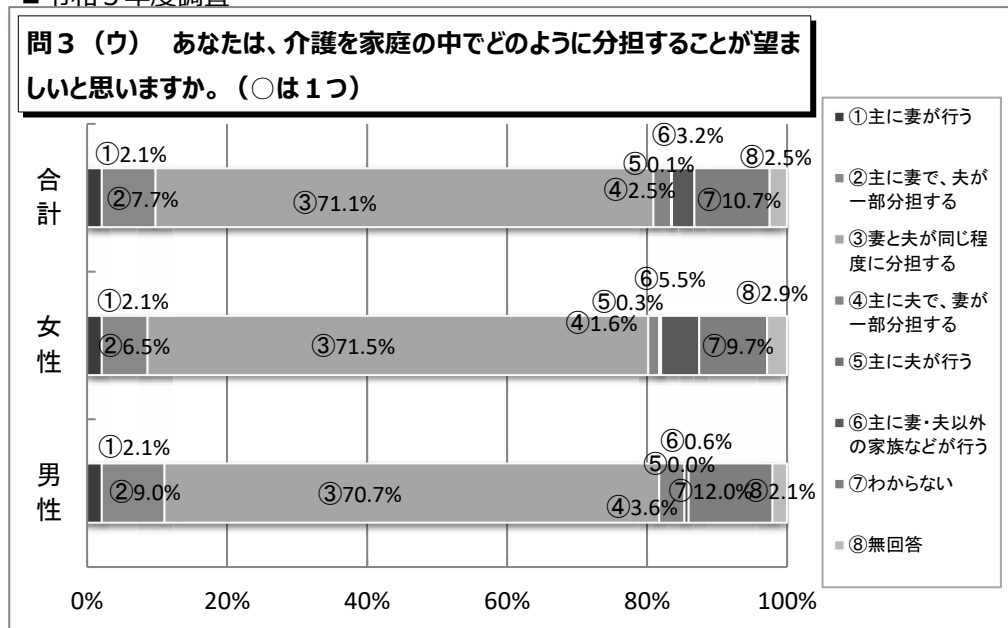
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

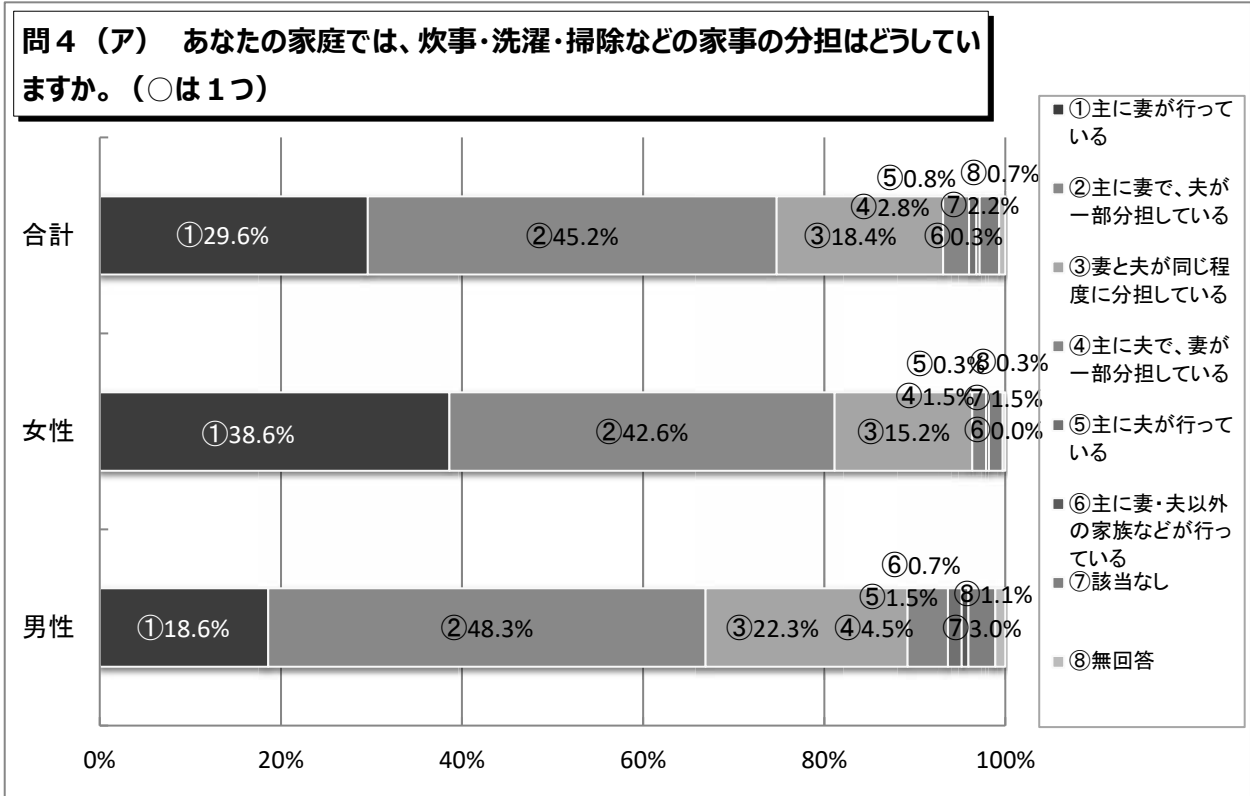
■家庭の中での介護について、望ましい分担のあり方を「妻と夫が同じ程度に分担する」と回答した人は全体で70.2%となり、家事や育児に比べこの回答の割合が高い。

■令和3年度調査



全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

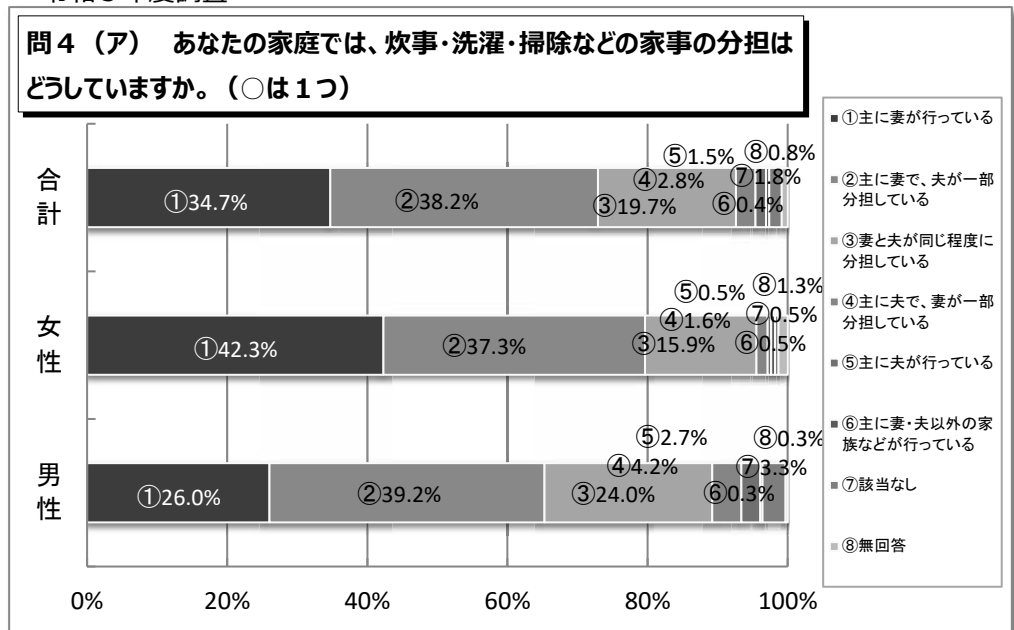
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

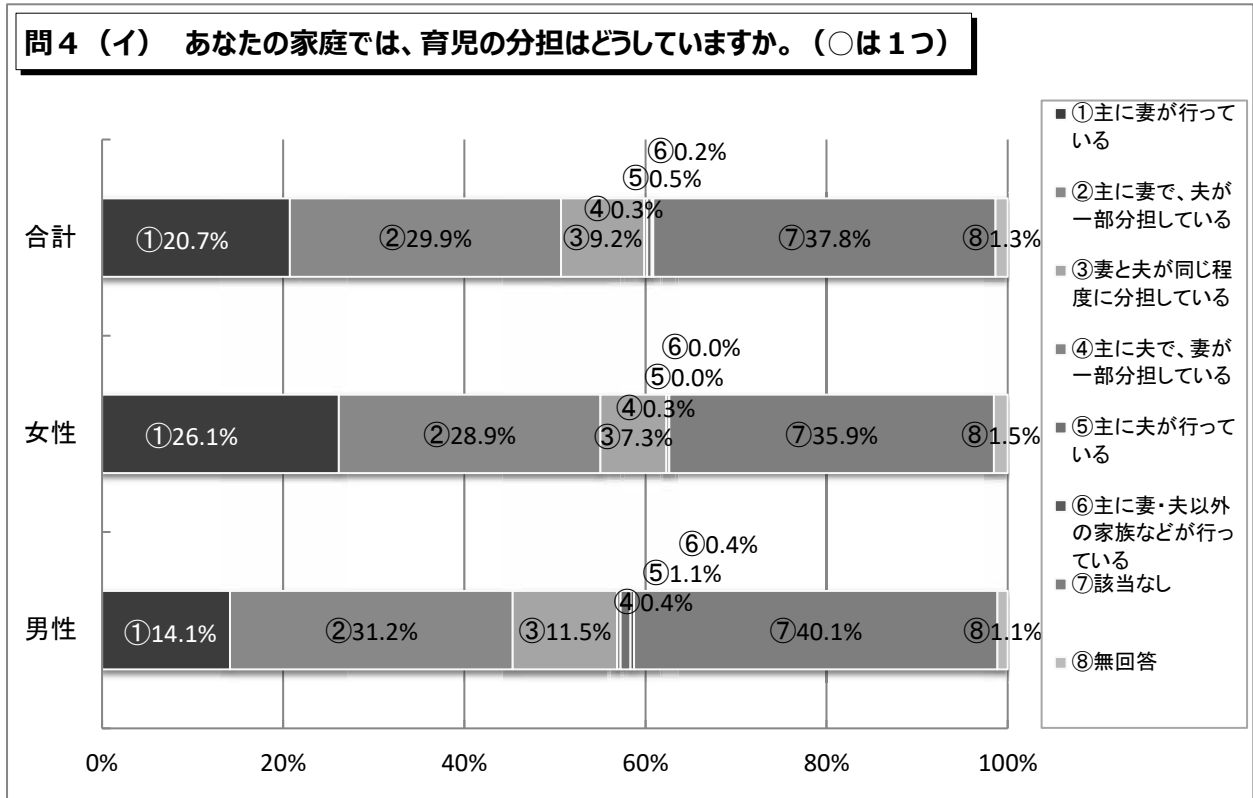
■家事の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が38.6%、男性が18.6%で男女差がある。

■令和3年度調査



全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

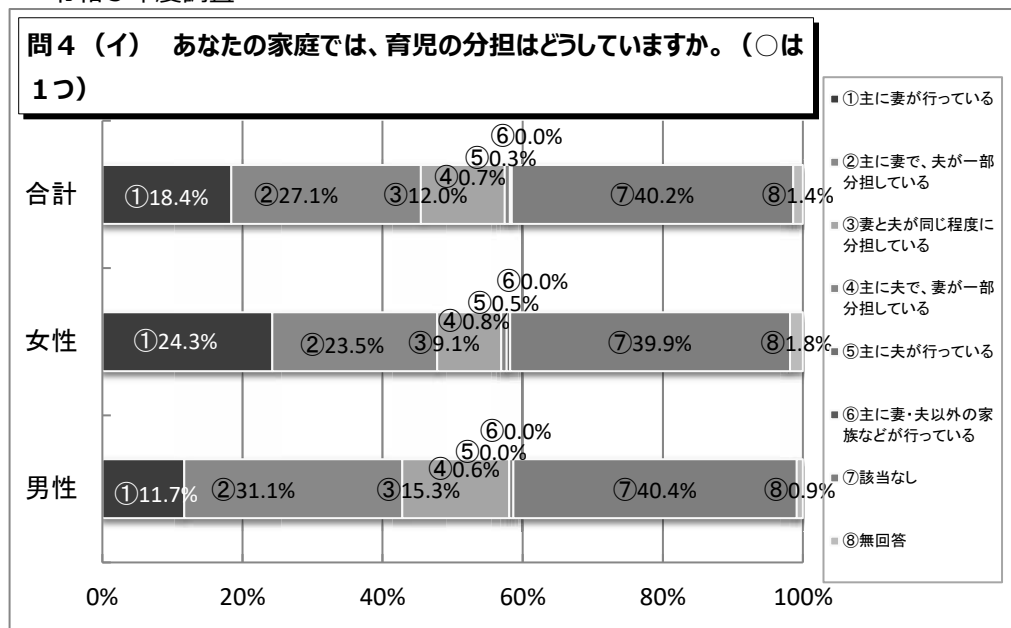
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

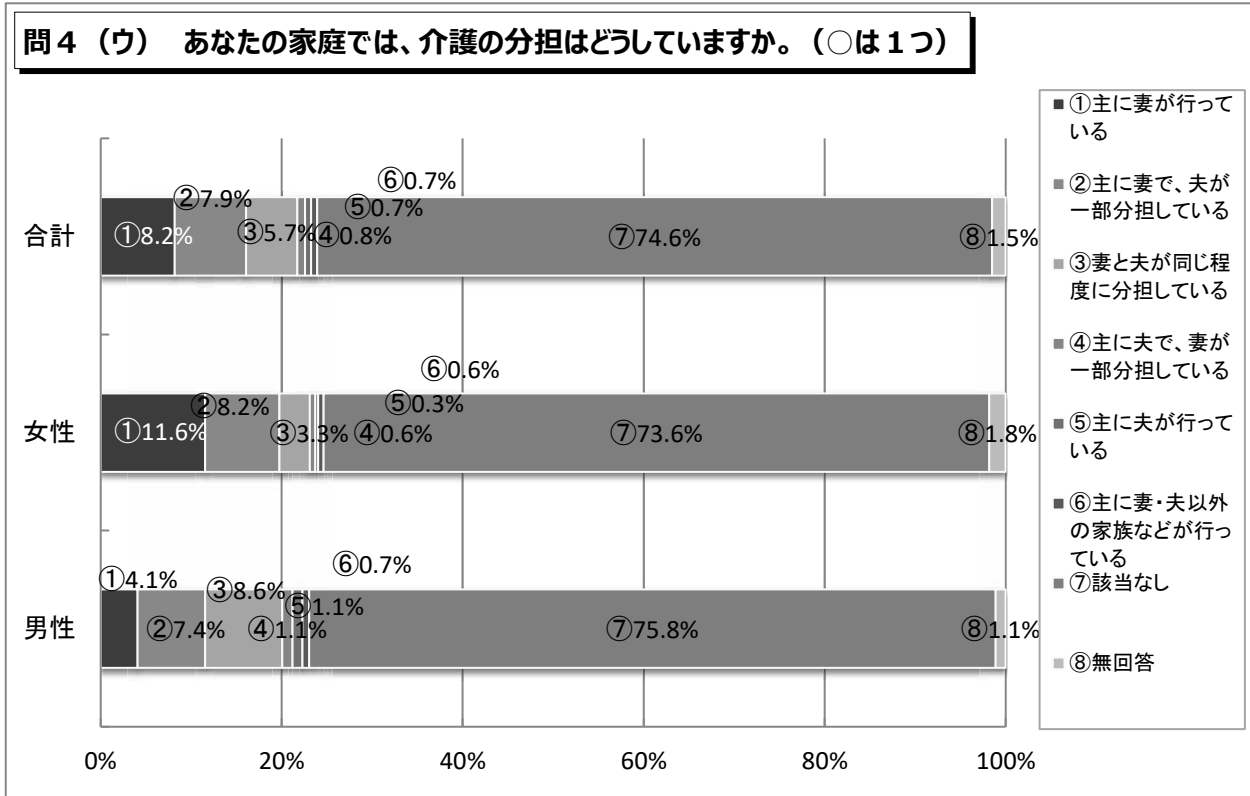
■ 育児の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が26.1%、男性が14.1%で男女差がある。

■ 令和3年度調査



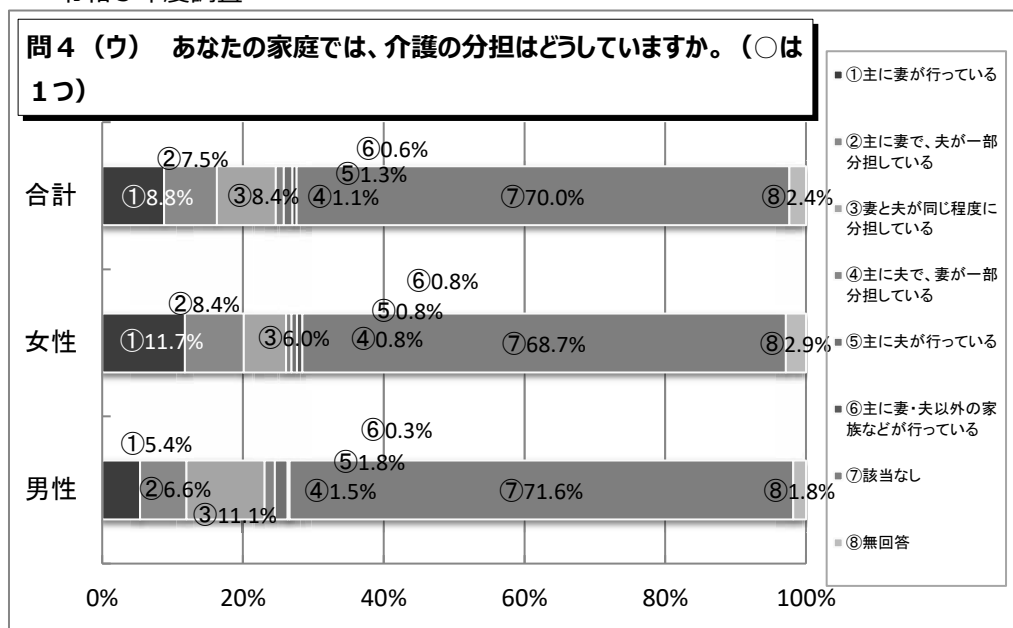
全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ



全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

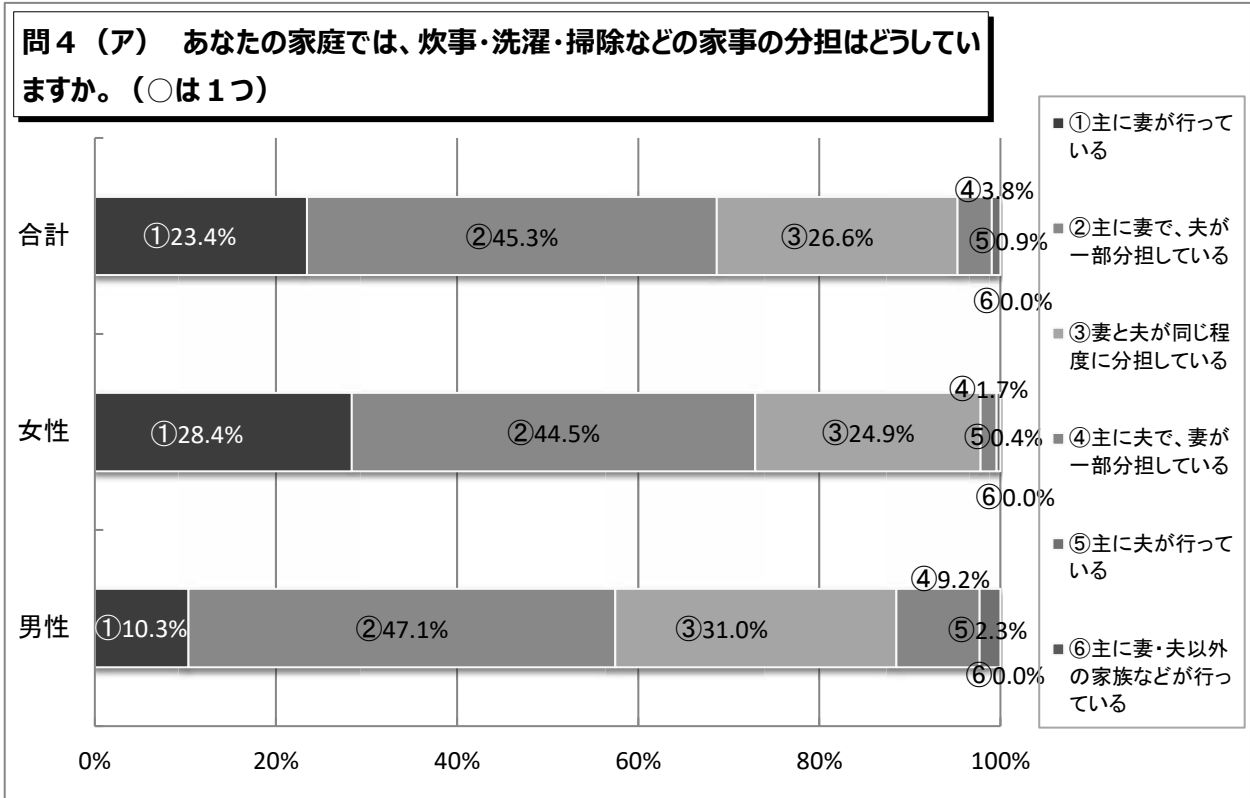
■ 令和3年度調査



全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

※問4（ア）のみ「共働き」の条件で抽出した集計

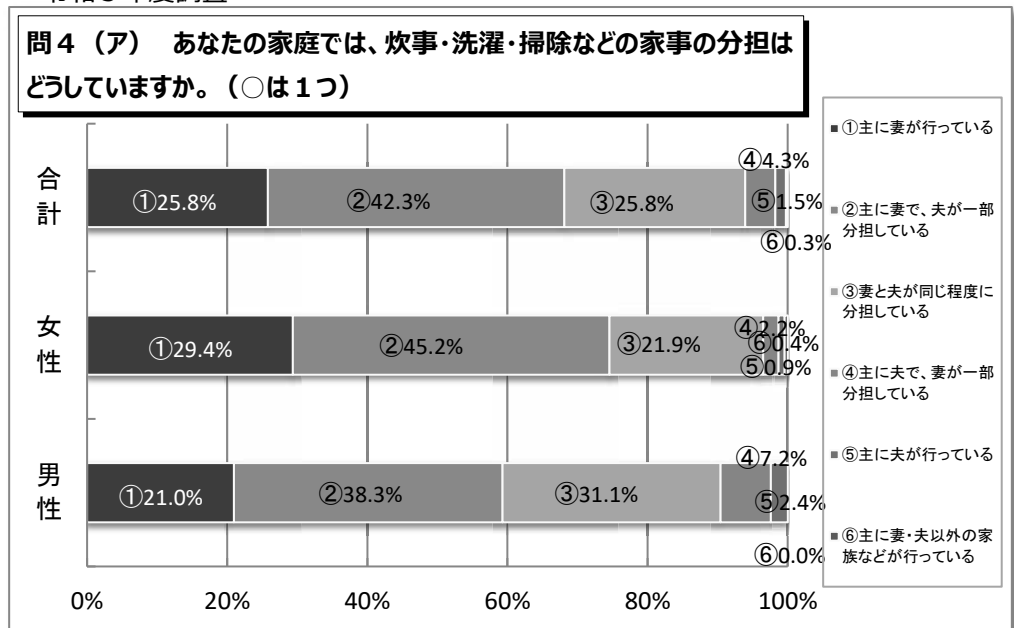
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ【共働き】（該当なし、無回答を除く）



全体 N = 316 女性 N = 229 男性 N = 87

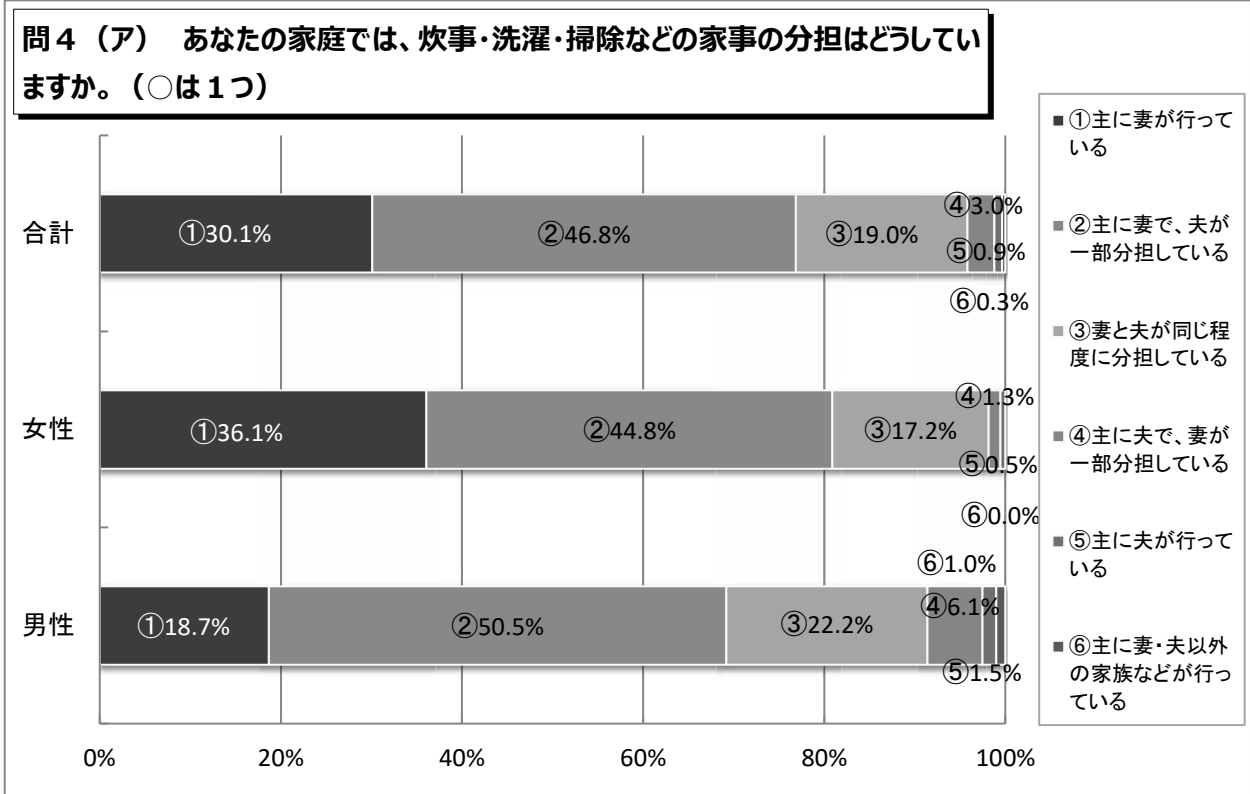
■ 家事の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が28.4%、男性が10.3%で男女差がある。

■ 令和3年度調査



全体 N = 395 女性 N = 228 男性 N = 167

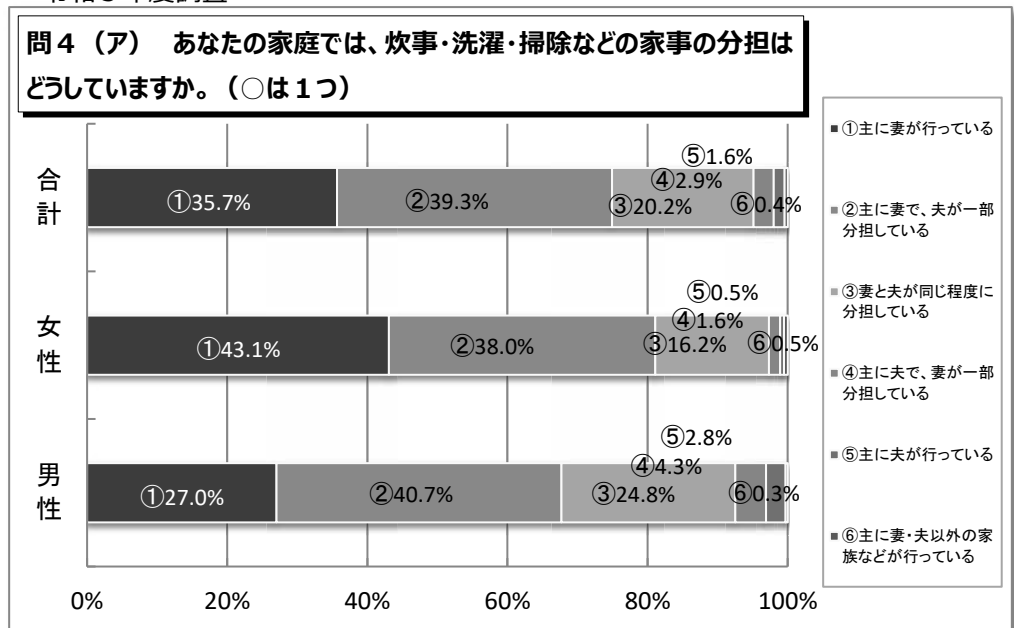
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ（該当なし、無回答を除く）



全体 N = 575 女性 N = 377 男性 N = 198

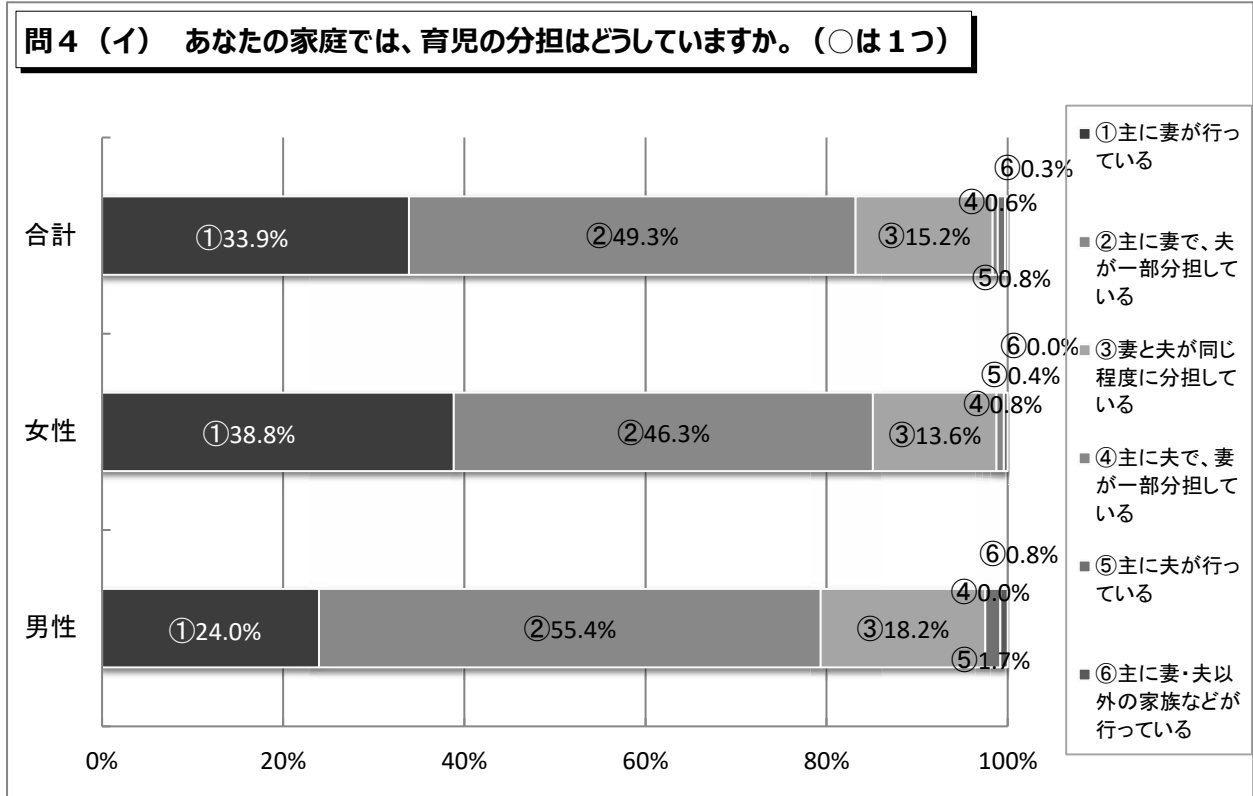
■ 家事の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が36.1%、男性が18.7%で男女差がある。

■ 令和3年度調査



全体 N = 698 女性 N = 376 男性 N = 322

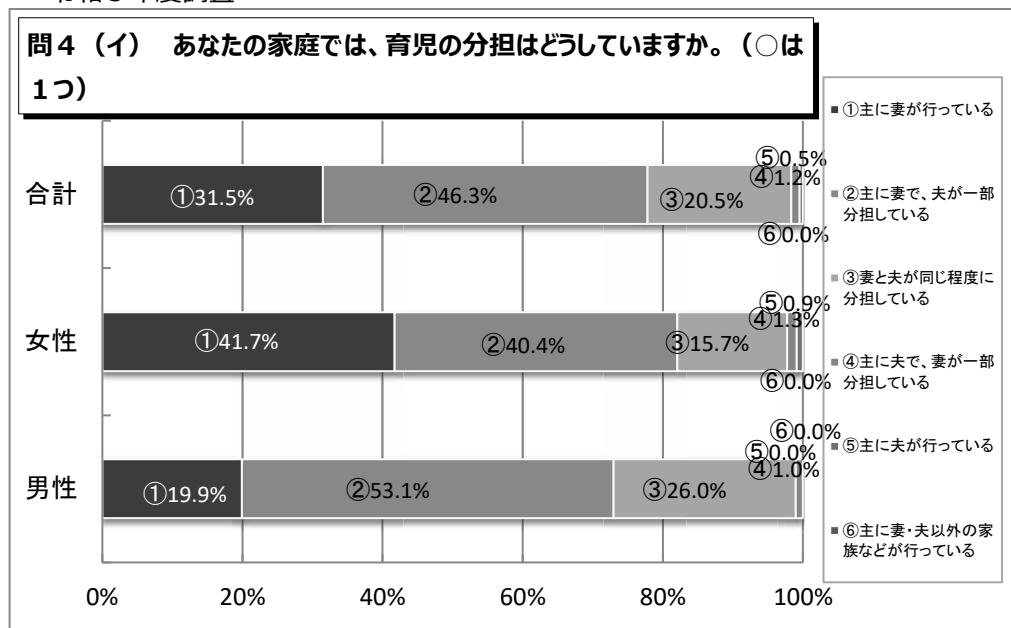
配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ（該当なし、無回答を除く）



全体 N = 363 女性 N = 242 男性 N = 121

■ 育児の分担について、「主に妻が行っている」と回答した人は、女性が38.8%、男性が24.0%で男女差がある。

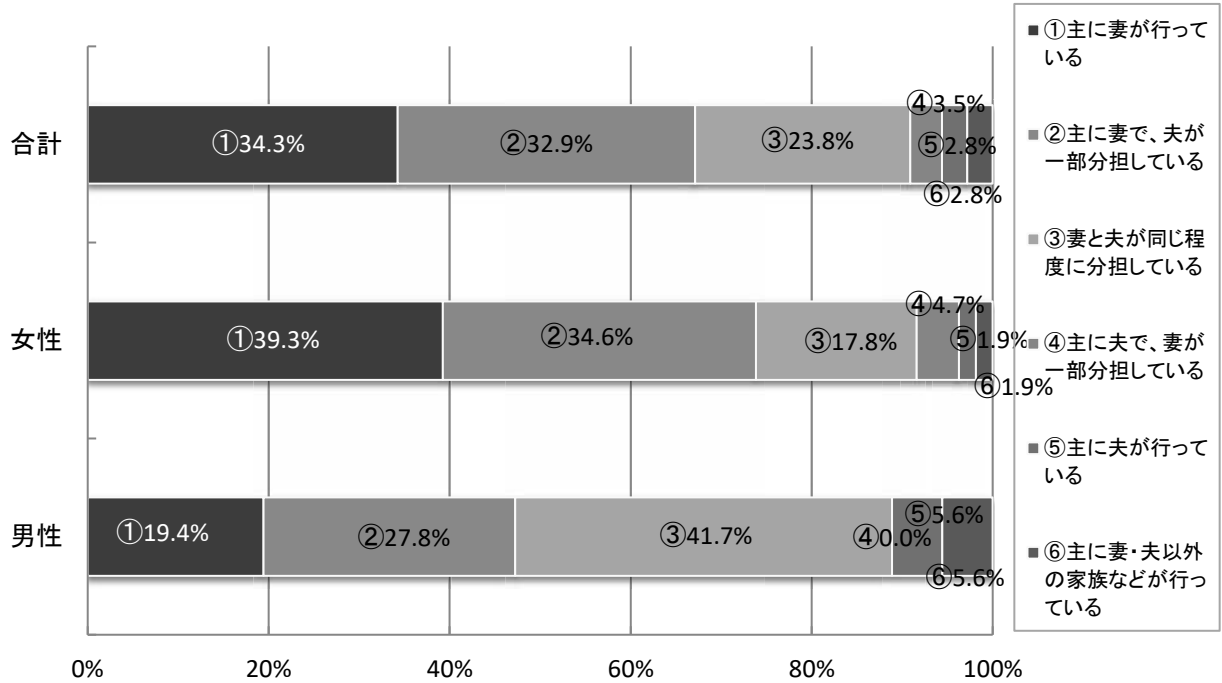
■ 令和3年度調査



全体 N = 419 女性 N = 223 男性 N = 196

配偶者（事実婚のパートナーを含む。）がいるかたのみ（該当なし、無回答を除く）

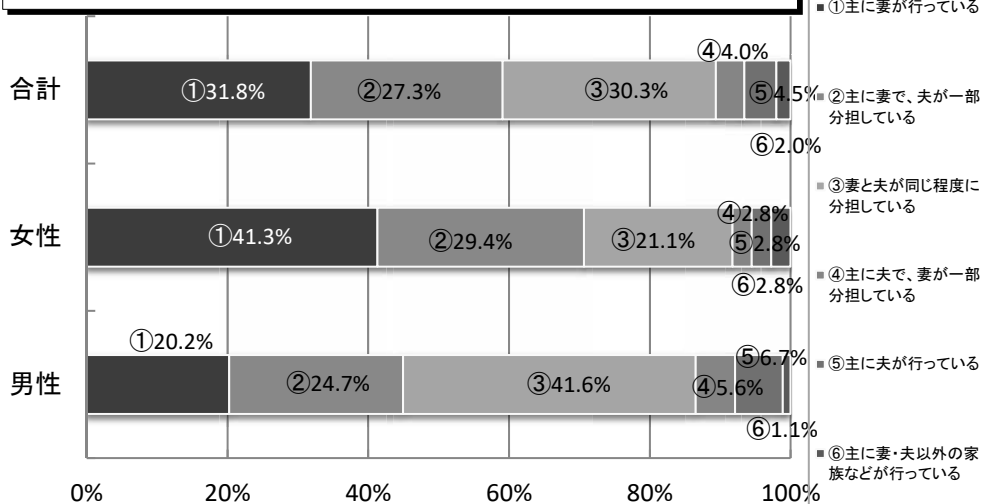
問4（ウ） あなたの家庭では、介護の分担はどうしていますか。（○は1つ）



全体 N = 143 女性 N = 107 男性 N = 36

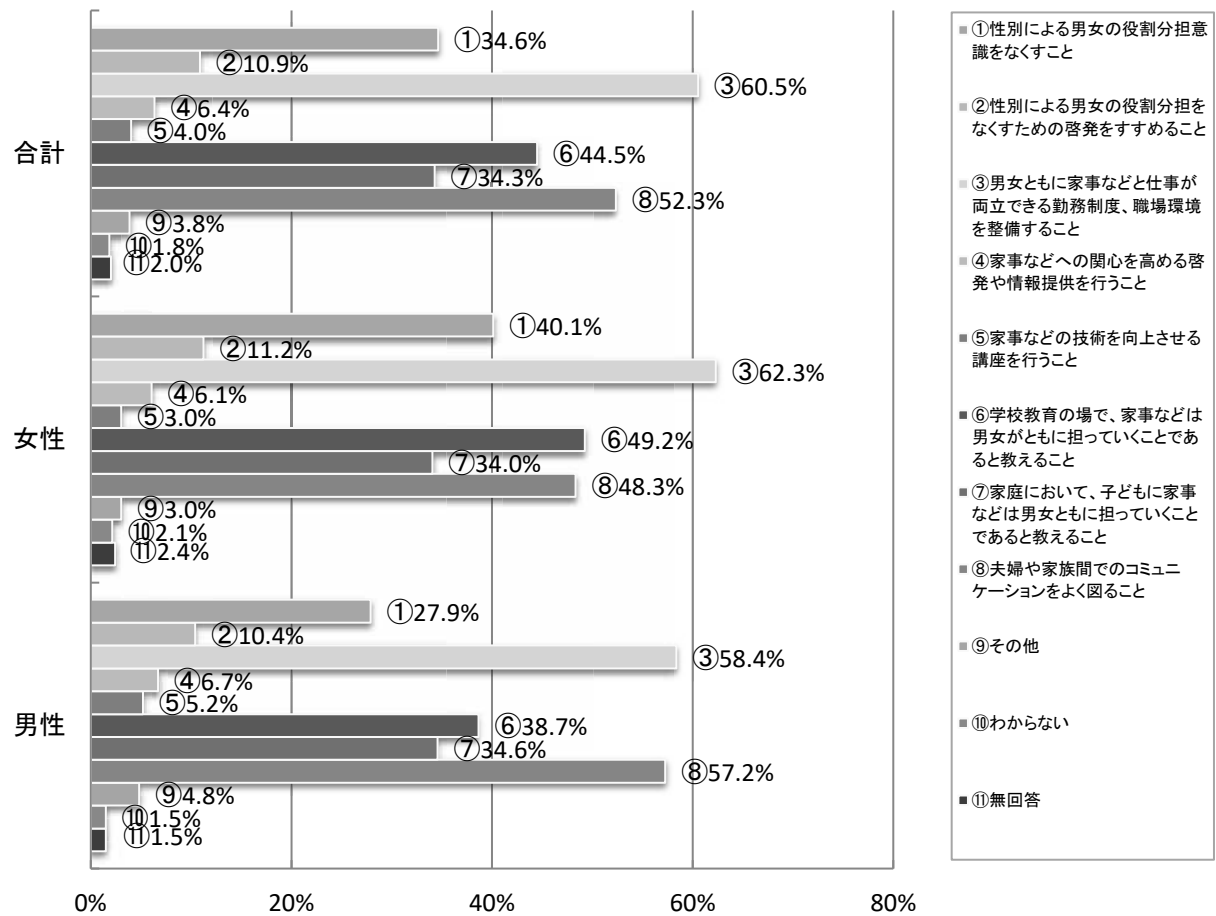
■ 令和3年度調査

問4（ウ） あなたの家庭では、介護の分担はどうしていますか。（○は1つ）



全体 N = 198 女性 N = 109 男性 N = 89

問5 あなたは、家事・育児・介護（以下、「家事など」という。）の分担が一方の配偶者に偏らないようにするためには、特にどんなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



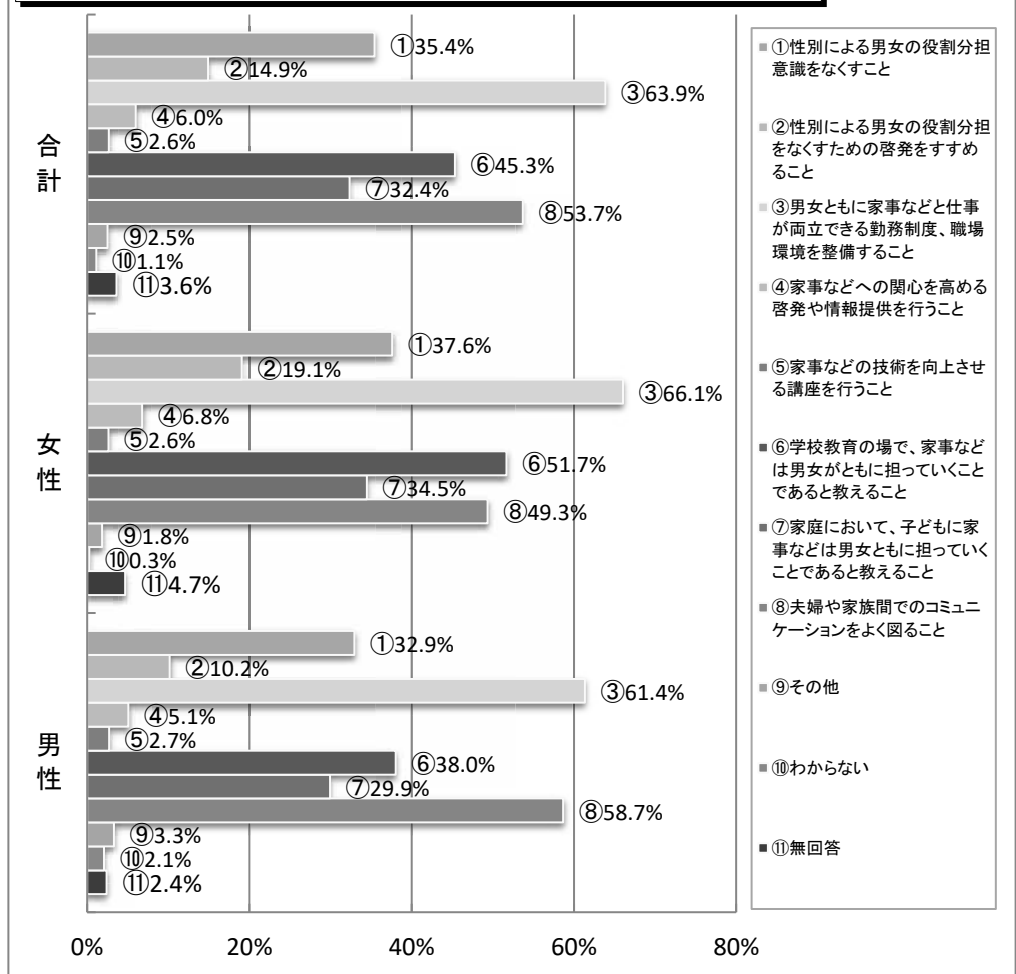
全体 N = 598 女性 N = 329 男性 N = 269

■ 家事などの分担が一方の配偶者に偏らないようにするために必要なこととしては、「男女ともに家事などと仕事が両立できる勤務制度、職場環境を整備すること」という回答が全体で60.5%と最も多い。

次に「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」（52.3%）、「学校教育の場で、家事などは男女がともに担っていくことであると教えること」（44.5%）と続く。

■ 令和3年度調査

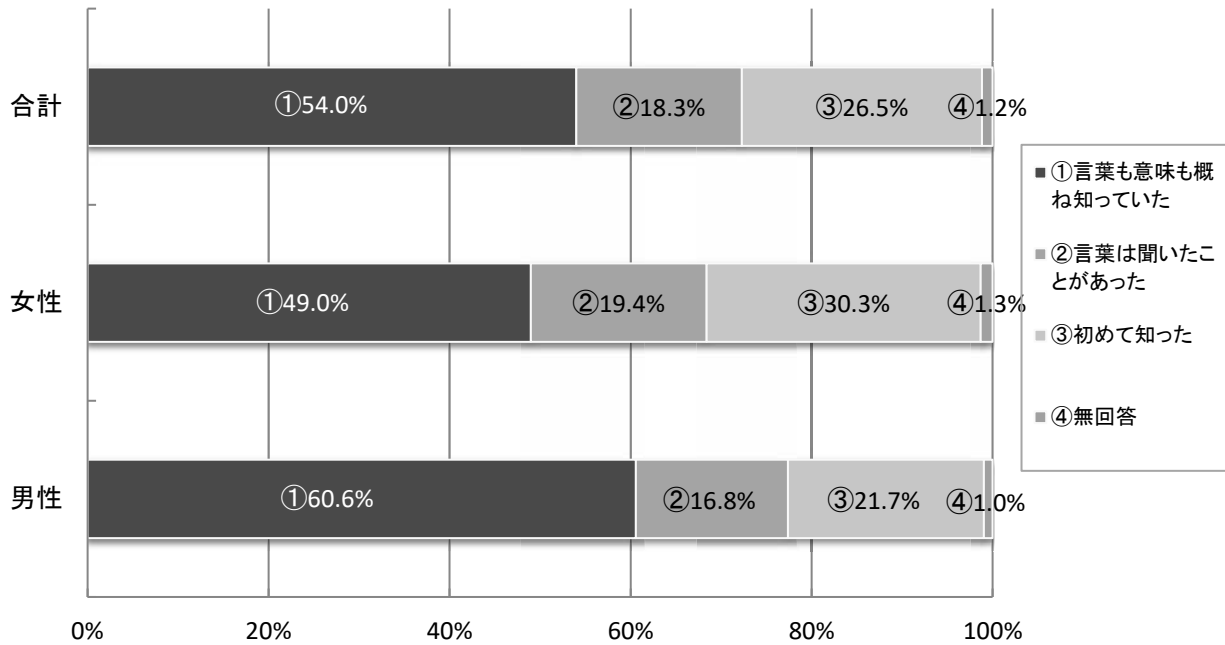
問5 あなたは、家事・育児・介護（以下、「家事など」という。）の分担が一方の配偶者に偏らないようにするためには、特にどんなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



全体 N = 717 女性 N = 383 男性 N = 334

【 Ⅱ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和） 】

問6 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つ）

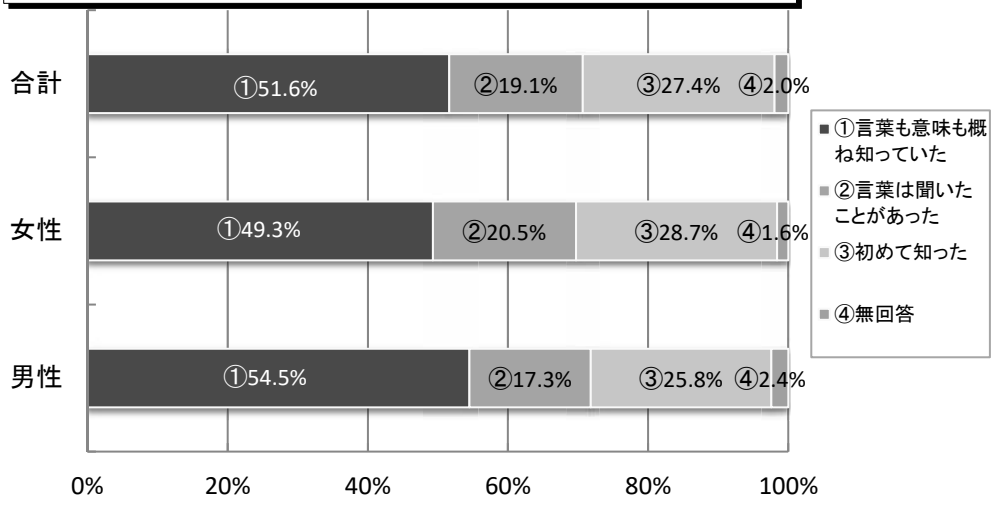


全体 N = 946 女性 N = 535 男性 N = 411

■「ワーク・ライフ・バランス」という言葉やその意味を知っているかについて、「言葉も意味も概ね知っていた」と回答した人は、女性が49.0%、男性が60.6%であり、男女差があった。

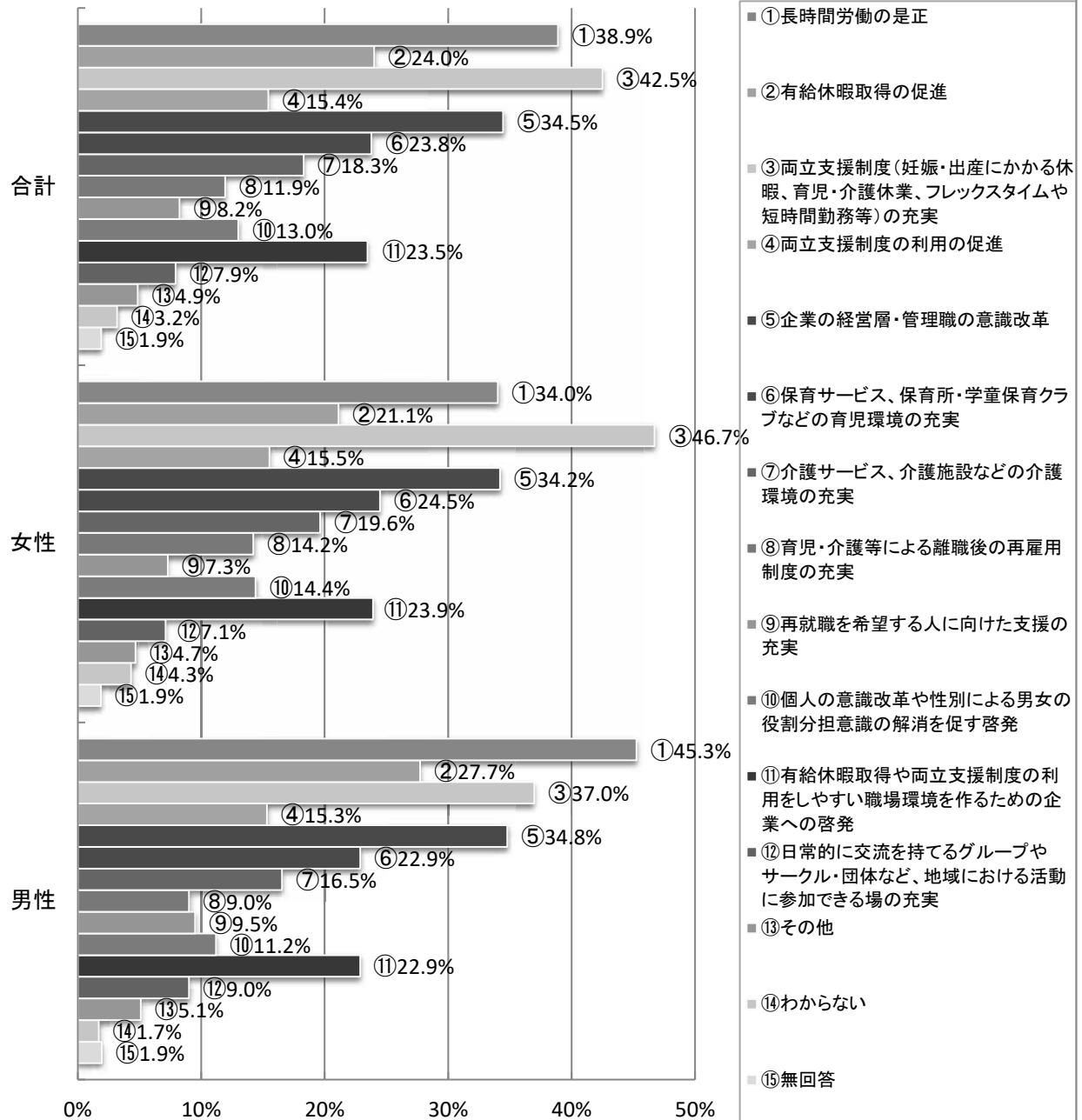
■令和3年度調査

問6 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉やその意味を知っていましたか。（○は1つ）



全体 N = 1118 女性 N = 621 男性 N = 497

問7 あなたは、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



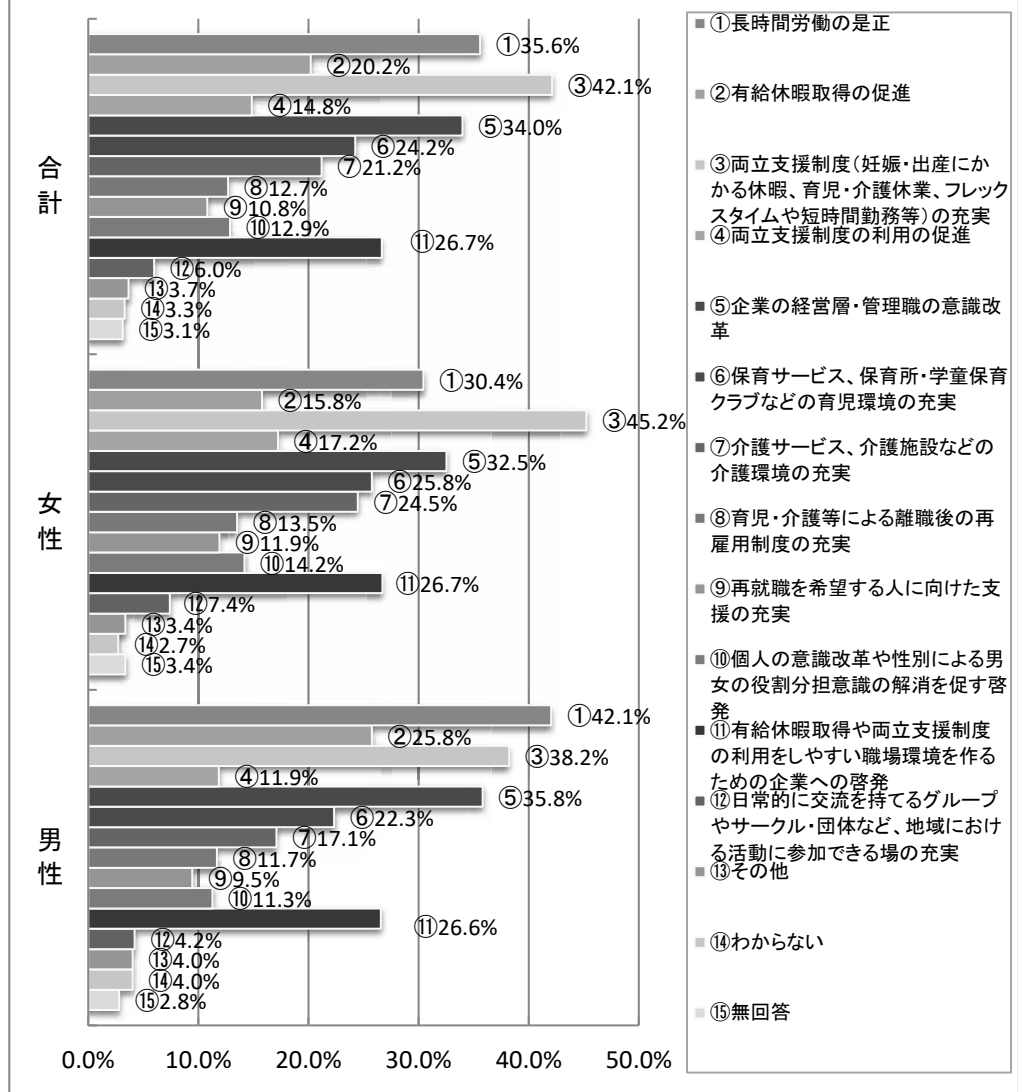
全体 N = 946 女性 N = 535 男性 N = 411

■ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこととしては、「両立支援制度（妊娠・出産にかかる休暇、育児・介護休業、フレックスタイムや短時間勤務等）の充実」という回答が全体で42.5%と最も多い。

次に「長時間労働の是正」（38.9%）、「企業の経営層・管理職の意識改革」（34.5%）と続く。

■ 令和3年度調査

問7 あなたは、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）



全体 N = 1118 女性 N = 621 男性 N = 497